

**令和2年度に使用する中学校教科用図書
(特別の教科 道徳を除く)の選定に必要な資料**

令和元年度作成

鳥取県教科用図書選定審議会

国語

国語	国語	番号 2	略称 東京書籍	書名 新しい国語
----	----	------	---------	----------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 新出漢字の音訓と用例は教材の脚注に示され、巻末の新出漢字一覧に筆順も含めてまとめられている。また、新出漢字の初出箇所には、本文中に振り仮名がつけられている。(1年P18, 304等)</p> <p>イ 巻頭の「学習の進め方・教科書の使い方」で、学習の流れやポイントを把握できる。(1年P12等)</p> <p>ウ 学習を通して身につけたい力が、「言葉の力」として教材末のコラムに明示され、巻末には3年間をまとめた項目一覧が掲載されている。巻末に「言葉を広げよう」と「学習用語一覧の索引」がつけられている。(1年P28等)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 「読むこと」の教材では教材文末の「てびき」があり、目標「読み取る」と「考えを深める」の2段階の課題、「たすけ」としてアドバイスが示されている。(1年P28)</p> <p>イ 「話すこと・聞くこと」「書くこと」の教材では、学習の流れが示され、見通しを持って学習が進められるようになっており、表現活動のモデルも複数示されている。(1年P120等)</p> <p>ウ 単元の扉に、季節を想起させる写真と、短い詩・短歌・俳句が掲載されている。(1年P17等)</p> <p>エ 脚注や「てびき」に、著者の他作品や関連図書が紹介され、本編中に8～9頁分の「読書案内」がある。(1年P26等)</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫 (単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 7単元と巻頭言、3～4の読書教材で構成されている。各単元は「読むこと」を中心に構成され、「読むこと」に関連づけて「話すこと・聞くこと」や「書くこと」の教材が配列され、単元を貫く言語活動が行えるようになっている。読解と表現をつなぐ役割として「学びの扉」があり、身につけたい言葉の力が示されている。(2年P2等)</p> <p>イ 巻末に「基礎編」があり、文法の解説のほか、本編と関連づけて言葉の力を高める技術を項目立てで解説し、併せて練習問題も載せてある。(2年P233等)</p> <p>ウ 巻末に「資料編」が60～70頁ほどあり、漢字・語句以外に読書教材や古典、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の参考資料が掲載されている。(2年P271等)</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫 (学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 単元名が学年を追って、系統的・発展的に学習することを表している。 (例) 第1単元の単元名 1年 言葉を楽しむ 2年 言葉を感じる 3年 言葉を磨く</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 古典教材は、古文[黒]、口語訳[茶]、現代仮名遣い[青]の3色で示され、口語訳の多くは後段(下段)にまとめて提示されている。巻末の資料編には、学習した古典に関連する発展的な教材(2、3年)がある。(3年P136, 292等)</p> <p>イ 「敬語」は文法事項として扱われ、2年で知識を習得し、3年で活用する構成になっている。(2年P30, 3年P30等)</p> <p>ウ 「書くこと」の領域を6つの系統(3年時は4つ)に分けて単元が構成されている。ミニ雑誌の編集や短歌の内容から物語を想像して書く教材がある。(3年P6等)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わり等	<p>ア 「言葉とメディア」に関する教材が各学年で掲載されている。(1年P186, 2年P186, 3年P184)</p> <p>イ 教科書のサイズがB5版で、1頁の行数が1年は17行、2・3年は20行で構成されている。脚注の幅が広い。</p> <p>ウ 東日本大震災やものづくりに関する教材が、掲載されている。(3年P184等)</p>

国語	国語	番号 11	略称 学校図書	書名 中学校 国語
----	----	-------	---------	-----------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 新出漢字の音訓と用例は各教材末にまとめてあり、筆順については巻末に「注意すべき筆順」が示されている。(1年P13, 307等)</p> <p>イ 巻頭の「この教科書を使うあなたへ」で、大きな学習の流れや領域ごとの学習の進め方を示している。</p> <p>ウ 脚注に読解を助ける問いや学習のヒントが、青字で示されている。(1年P54等)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 「読むこと」の教材末には、手引きとして学習の進め方を、〈読む前→読み深める→まとめ〉の3段階で示した「学びの窓」があり、目標に合わせて〈言葉の力〉〈考える力〉〈知識と技能〉の3観点で学習内容を自己評価できる「ついた力を確かめよう」がある。(1年P12等)</p> <p>イ 単元ごとに「読むこと」の作品を表現活動につなぐ「活動を考える」(コラム)を設定し、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の教材の準備活動としている。(1年P41等)</p> <p>ウ 単元の扉に、詩と学習目標が掲載されている。(1年P1等)</p> <p>エ 脚注の「読書を広げるために」で、著者の他作品や関連図書が紹介され、本編中に「読書案内」がある。(1年P19等)</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫 (単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 5単元で構成(小説・随想3、説明・評論1、古典1)されている。1つの単元に複数の読み物教材と「話すこと・聞くこと」または「書くこと」が入っている。「話すこと・聞くこと」と「書くこと」の教材は各学年2つずつある。</p> <p>イ 「表現に向かう読み」という項目があり、読解から表現(書くこと)につながっている。(2年P168等)</p> <p>ウ 巻末に、語句や文法、「今に伝わる注意したい古語」、「口語・文語活用対照表」等の資料が、40～60頁ほど掲載されている。(2年P276, 335等)</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫 (学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 単元名が3学年とも同じで、サブタイトルが学年を追うごとに広がりを持つものになっている。</p> <p>(例) 第1単元の単元名 1年 絆～家族の中で 2年 絆～仲間と共に 3年 絆～社会に向けて</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 古典教材の口語訳は行間に青色で示されている。現代仮名遣いは古文同様の黒色である。単元の終わりに[古典読書]の発展的な教材がつけられている。(3年P168, 191等)</p> <p>イ 「敬語」は文法領域でなく「言葉の学習」として扱われている。(2年P214等)</p> <p>ウ 「書くこと」の学習は各学年2つずつ設けている。 ブックカバー作成や絵を見て想像力を膨らませて書く単元がある。(2年P74等)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わり等	<p>ア 各学年で「情報と表現」という項目を立ててメディアリテラシーの教材を設定している。(3年P95, 256等)</p> <p>イ 教科書のサイズがB5版で、1頁の行数が全学年17～19行で構成され、行末に行を表す点が付されている。</p> <p>ウ ハングル文字・点字・手話や、東日本大震災に関する教材が掲載されている。(3年P40, 144, 250, 252)</p>

国語	国語	番号 15	略称 三省堂	書名 中学生の国語 /学びを広げる
----	----	-------	--------	----------------------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 新出漢字の音訓と用例は教材末に示され、巻末には筆順も含めてまとめられている。各単元末には既習漢字と併せて読み書きの確認ができるようになっている。(1年P36, 41, 52, 288等)</p> <p>イ 巻頭「領域別教材一覧」には、教材ごとにつけたい力が示され見通しを持って学習できるようになっている。(1年P6等)</p> <p>ウ 読み物教材の前後にある「読み方を学ぼう」で読解のスキルが示され、巻末には「読み方を学ぼう一覧」として、その学年の学習内容がまとめられ、「学習用語辞典」がつけられている。(1年P32, 321等)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 各教材に「内容を整理しよう」「考えを深めよう」の2段階に構成された学習の手引き「学びの道しるべ」があり、「学びを広げよう」では発展的な学習課題も示されている。(1年P24等)</p> <p>イ 「話すこと・聞くこと」「書くこと」の教材では、冒頭に学習の手順が示されている。(1年P69, 91等)</p> <p>ウ 単元の扉に、イラストと教材名が掲載されている。(1年P31等)</p> <p>エ 各教材末には「私の本棚」、巻末には「小さな図書館」として、著者の他作品や関連図書が紹介されている。(1年P41等)</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 8～9の単元で構成されている。各単元は「読むこと」(古典単元以外はおおむね1教材)を中心に構成されておりその中に「話すこと・聞くこと」、「書くこと」や「言語事項」が配列されている。(2年P3)</p> <p>イ 「表現プラザ」という即興劇や対話劇等に取り組む教材がある。(1年P188, 2年P200等)</p> <p>ウ 本編のあとに100頁ほどの「文法のまとめ」「資料編」があり、「資料編」には「読書の広場」「考える広場」「参考資料」がある。3学年共通の資料がいくつか掲載されている。(2年P239等)</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 単元名が3学年に渡って共通のものがいくつかある。 (例) 3学年共通</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報を読み解く ・古典に学ぶ ・読みを深め合う
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 古典教材の口語訳は行間や下段に青色で示されている。現代仮名遣いは、茶色で示されているが、3年生ではつけられていない。漢文の訓読文にも青または茶色の色がつけられている。巻末資料編の「古典を楽しむ」で発展的な教材がつけられている。(3年P118, 124, 240等)</p> <p>イ 「敬語」は「言葉の学習」として扱われ、2年で知識を習得し、3年では生活の中で適切に使える活用の構成となっている。(2年P157, 3年P140等)</p> <p>ウ 「書くこと」の言語活動を4～6種に分けており(3年P7)、「小論文」の書き方教材がある。(2年P106, 3年P46等)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わり等	<p>ア メディア・リテラシーに関する教材が3年にある。(3年P132)</p> <p>イ 教科書のサイズがB5版で、1頁の行数が全学年20行で構成されている。単元名、題名はフォントが大きく余白も広めに取ってある。</p> <p>ウ 世界遺産やパラリンピックに関する新聞記事が、掲載されている。(3年P138, 2年P66)</p>

国 語	国 語	番号 17	略称 教育出版	書名 中学国語
-----	-----	-------	---------	---------

項 目		特 徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 新出漢字の音訓と用例は教材末に示され、巻末には筆順も含めてまとめられている。また、巻末の練習問題で漢字の読みがチェックできる。（1年P26, 241, 272等）</p> <p>イ 巻頭に「身につけたい言葉の力」を図で表し、「教科書の構成」と「この教科書の使い方」によって大まかな学習の流れを示している。（1年P7, 11等）</p> <p>ウ 各学年の巻末に、「理解や表現に役立つ言葉」と「学習に必要な用語」の索引がつけられている。（1年P335, 336等）</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 「読むこと」の教材には学習目標と学習を進める上での手引きを〈確かめよう→深めよう→考えよう〉の3段階で示した「道しるべ」があり、「ここが大事」に学習の重点がまとめられている。（1年P95, 96等）</p> <p>イ 教材には、「目標と振り返り」に自己評価チェック欄が設けられている。また、「学びを生かそう」には、学習内容が日常生活に活用できるよう表示してある。（1年P26, 42等）</p> <p>ウ 単元の扉に、単元のテーマが掲載されている。（1年P19等）</p> <p>エ 各教材末の「読んでみよう」に著者の他作品や関連図書が紹介されている。（1年P27, 61等）</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫（単元の設定・配列の相違等）	<p>ア 7～8の単元で構成されている。古典以外の各単元は、1つの読み物教材を中心に構成されていることが多い。各単元には、おおむね「話すこと・聞くこと」または「書くこと」が配置されている。（2年P3等）</p> <p>イ 図表を用いた「話すこと・聞くこと」の活動を仕組んだ教材がいくつかある。（1年P42, 2年P34等）</p> <p>ウ 巻末に120頁ほどの資料があり、「言葉と文法」「漢字」と、補助教材としての読み物や「話す・聞く」「書く」「情報」に関する資料、各県ごとの「文学にゆかりのある風景」等が掲載されている。（2年P231等）</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫（学び方や考え方の展開の相違等）	<p>ア 単元名が各学年を追って、系統的・発展的に学習することを表している。</p> <p>（例）第2単元の単元名 1年 関係を見いだす 2年 関係を掘り起こす 3年 関係を生きる</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 古典教材の口語訳は、下段に黄色枠内に示されている。現代仮名遣いは青色で示され、漢文の口語訳も黒以外の色が使われている。巻末折り込みに古典に関する発展的な教材がつけられている。（3年P108, 126, 351等）</p> <p>イ 「敬語」は文法でなく「言葉の学習」として扱われ、2年で種類を学び、3年で社会の中での活用を想定して配置してある。（2年P133, 3年100等）</p> <p>ウ 「書くこと」の言語活動を5～6種に分けている。芸術作品の鑑賞や写真をもとにした物語の創作、4コマ漫画から意見文を書く教材がある。（2年P8, 3年P8等）</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わり等	<p>ア 各学年にメディア・リテラシーに関する教材が設定されている。（1年P62, 2年P64, 3年P72等）</p> <p>イ 教科書のサイズがB5版で、用紙は薄く軽い。1頁の行数が16～18行で構成され、行末に行を表す点が付されている。</p> <p>ウ 世界遺産やパラリンピックに関する教材が掲載されている。（1年P166, 3年P224等）</p>

国語	国語	番号 38	略称 光村図書出版	書名 国語
----	----	-------	-----------	-------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 新出漢字の音訓と用例は教材末に示され、巻末には筆順も含めてまとめられている。巻末には「漢字の練習」の頁がある。 (1年P32, 257, 260, 296等)</p> <p>イ 「この教科書で学習するみなさんへ」を巻頭に配置し、見直しをもって学習に取り組めるよう説明している。(1年P6~12等)</p> <p>ウ 「学習の窓」で学習のポイントや身につけたい力等が示され、巻末に「学習のための用語一覧」として各学年で学ぶ学習項目の索引と、「感想を表す言葉」「感情を表す言葉」「抽象的な言葉」の一覧と、折り込みに文章を読むための基本的な用語がまとめられている。 (1年P33, 326等)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 「読むこと」の教材末の「学習」には〈確認しよう→読みを深めよう→自分の考えをもとう〉の3段階の「目標」が示されている。 (1年P105等)</p> <p>イ 「話すこと・聞くこと」「書くこと」は〈目標→学習の見直しをもとう→次へつなげよう〉の流れで統一されている。《次へつなげよう》には自己評価チェック欄があり他教科や生活へのつながりの視点も示されている。(1年P36, 39, 56, 59等)</p> <p>ウ 単元の扉に、季節を想起させる写真と共に単元目標が掲載され、年間4回「季節のしおり」として詩歌・暦・絵画等が掲載されている。 (1年P25, 35等)</p> <p>エ 教材末の脚注に、著者の他作品や関連図書が紹介され、読書教材の後に6頁分の「読書案内」がある。(1年P32, 90等)</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫 (単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 7単元と2つの読書単元で構成されている。各単元は「読むこと」を中心に配列されており、その中に「話すこと・聞くこと」「書くこと」が含まれている。1つの単元に複数の読み物教材が入ることが多く、文学作品と説明的文章、小説と古典等の組み合わせがある。 (2年P3等)</p> <p>イ 「話すこと・聞くこと」「書くこと」には「練習」教材が設けられて、活用できるようになっている。(2年P30, 51等)</p> <p>ウ 巻末に「文法」「資料」等が90頁ほどあり、読書教材や古典、漢字等が掲載されている。(2年P237, 263等)</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫 (学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 単元名が学年を追って、系統的・発展的に学習することを表している。 (例) 第2単元の単元名 1年 多様な視点から 2年 新しい視点へ 3年 視野を広げて</p>
その他	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 古典教材の行間の口語訳は1年が緑色、2年がオレンジ色で記されている。2、3年の古典教材は1つの単元だけでなく、分けて配置されている。巻末には、伝統(古典)芸能についての発展教材が各学年に配置されている。(3年P32, 254等)</p> <p>イ 「敬語」は2年時に「言葉の学習」として扱われている。 (2年P126等)</p> <p>ウ 「書くこと」の学習を各学年の古典学習の発展教材にも設けている。ポスターセッション、職業ガイド、修学旅行記等の書く教材がある。 (1年P230, 2年P34, 3年P54等)</p>
	⑥今日的な教育課題との関わり等	<p>ア 各学年に情報に関する教材やコラムが掲載されている。</p> <p>イ 教科書のサイズがB5版で、1頁の行数は1年は17行、2・3年は20行で構成され、イラストや写真が大きめでカラフルな仕上げとなっている。ページ番号が上側に書かれている。</p> <p>ウ 絶滅危惧種、東日本大震災、無形文化遺産に関する教材が掲載されている。(1年P164, 2年P180, 3年P124)</p>

書寫

国語	書写	番号 2	略称 東京書籍	書名 中学書写
----	----	------	---------	---------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	ア 書く時のポイントを手本の枠外にタグで簡潔に示している。(P9, 10等) イ 行書の基本的な書き方として、運筆と字形を関連付けた「4つのパターン」を示している。(P29, 30) ウ 「トン、スー、ピタ」等の言葉で表現し、運筆のリズムをつかめるようにしている。 エ 横幅が広く、図版が大きく実物大で示してある。(P4~6, 12, 13)
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	ア 模範と課題のある書字とを比較することにより文字の整え方を示している。(P8) イ 個々に見通しを立てて学習を進められるように、学習の流れを図解している。(P64, 65) ウ 巻末資料に常用漢字表・人名漢字表の楷書、行書がある。
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	ア 具体的な学習手順を示し、各自が書体・用紙・筆記具等を選択して作品を制作する学習活動を学年に1つずつ設定している。(P26, 27, 64, 65, 94, 95) イ 古典作品を取り上げ、書き手による書きぶりの違いを比較する資料を配置している。(P106, 107)
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	ア 行書の学習では、1、2年時ともに「4つのパターン」を活用している。(P29, 48) イ 各学年ともに、「練習」「資料」「生活に広げよう」の3つのタイプの教材で構成している。
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	ア ノートやポスターの書き方等、学校生活で書写を生かす例を具体的に明示している。(P86, 87, 90, 91) イ 学校や地域の行事を題材にし、事前・事後の学習も含めた活動の流れの中で書写を生かす場面を紹介している。(P42~45, 72~78) ウ 身近にある多様な文字について目的や工夫を調べる学習活動を設定している。(P82~85)
その他	⑥今日的な教育課題との関わり等	ア 絵はがきを書く学習活動では、多様な年齢の相手を意識する内容となっている。(P88, 89) イ 防災訓練を題材として取り上げて、地域との関わりを意識できるように工夫している。(P72, 73) ウ 導入部分で小学校の学習内容を、「巻末資料」では高校書道の内容をそれぞれ扱い、校種間の接続を意識することができる。(P8, 9, 104, 105)

国語	書写	番号 11	略称 学校図書	書名 中学書写
----	----	-------	---------	---------

項目		特徴	
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	ア 楷書、行書ともに基本的な点画を朱墨と薄墨を用いて詳しく示している。(P11, 33) イ 字形と関連させて筆順を示すことで、その意義を示している。(P14, 15, 34, 35) ウ 硬筆の書き込み欄に補助線を入れている。 エ 手本にかご書きを用い、始筆・終筆の形を示している。(P21等)	
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	ア 硬筆の書き込み欄が大きく、随所に書き込み頁を配置している。 イ 「書き初めをしよう」では、注意するポイントを簡潔に明示している。 ウ 学習を振り返る視点を大きく示し、自己評価できるように工夫している。	
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	ア 解説を加えない大判の手本を最初に示し、次頁の小さい手本に字形や筆順等の解説を加える構成をとっている。 イ 各課題を書く中で既習事項を振り返ることができる構成をとっている。(P21等)	
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	ア 3年では「書写を生かそう」という1つのテーマで学習内容を構成している。(P84, 85) イ 「学習の進め方」では、毛筆学習の良さや意義についても示している。(P3)	
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	ア 活用する場面によって書体を選んで書く学習活動を設定している。(P71) イ 古典の臨書体験や篆刻体験では、発展的な学習内容を具体的に示している。(P96~100, 109) ウ 学校行事や日常生活に書写を生かしている例を紹介している。(P86~93)	
その他	⑥今日的な教育課題との関わり等	ア ボランティア活動を題材とし、学校内外の社会的活動を事例としている。(P92) イ 「書写の窓」では発展的な内容を扱い、高校書道での学習につないでいる。(P16, 40, 96, 100, 109) ウ 裏表紙に「保護者の方へ」というメッセージを掲載し、書写教育の意義について理解を求めている。	

国 語	書 写	番号 15	略称 三省堂	書名 中学書写
-----	-----	-------	--------	---------

項 目		特 徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 基本的な筆使いについて、朱墨と薄墨や写真を用いて、穂先の位置を具体的に示している。(P9, 46, 47)</p> <p>イ 罫線や補助線を用いない書き込み欄を設けている。(P22, 58等)</p> <p>ウ 毛筆で書くときのポイントについて、穂先・筆圧に加え、軸についても取り上げている。(P9)</p> <p>エ 「学習のまとめ」を設けて、毛筆で学習したことを硬筆で書いて確かめる欄を設けている。(P14等)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 書字の手がかりとなるキャラクターのセリフを随所に配置している。</p> <p>イ 学習目標を問いの形式で提示し、生徒の主体的な学習を促している。</p> <p>ウ 巻末「自分の文字」では、自分らしい文字使いを大切にすることを取り上げて、今後の書字活動につなげるような工夫をしている。</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 「考えよう・話し合おう」という流れで、学び合いを促す構成をとっている。</p> <p>イ 前単元の内容を活用する「生活に生かそう」を設定するという「2単元で1セット」の構成を取り、日常生活での活動を通して技能習得を目指している。</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 課題の量や活動の内容に配慮し、各学年の年間配当時数で学習を進められるようにしている。</p> <p>イ 3年の「三年間で学んだ書写技能」では、3年間での既習事項を振り返ることができる。(P76)</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 書体の使い分けについて日常の様々な場面を例に挙げ、話し合いや書体を選んで書き込む学習活動を設定している。(P62~65)</p> <p>イ 本の紹介や掲示物等、書写を生活に生かす学習活動では作成の手順やポイントを明示している。(P26, 27, 40~42, 66, 67)</p> <p>ウ パソコンの活用も視野に入れて、身の回りの文字の工夫について話し合ったり調べたりする学習活動を取り入れている。(P70~73)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わり等	<p>ア 「本を紹介しよう」では作成したポップを交流する活動を設定し、文字を書くことをコミュニケーションの手段として位置づけている。(P40~42)</p> <p>イ 行事の掲示物を題材として取り上げ、書く目的や相手を意識させている。(P72, 73)</p> <p>ウ 「話し合おう」という活動を設定し、言語活動を充実させる等、協働的な学びを取り入れている。</p>

国語	書写	番号 17	略称 教育出版	書名 中学書写
----	----	-------	---------	---------

項目		特徴	
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	ア 朱墨と薄墨で筆使いを示している部分を随所に設けている。(P12等)	イ 筆圧について、三段階に分けたり写真を用いたりして視覚的に示している。(P12)
	ウ 硬筆の書き込み欄では、線や印で中心を示している。(P27等)	エ 手を筆先に見立てて、筆の動きを確かめる図版がある。(P44)	
内容の構成・配列について	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	ア 「考えよう・生かそう・振り返ろう」のステップで思考を促し、自己評価まで導いている。	イ 「生かそう」の発展学習の例示では、詳細なポイントを示している。
	ウ 補充教材集では、毛筆の発展的な学習内容を設定している。	エ 常用漢字行書一覧表を部首別に配列している。	
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	ア 毛筆での学習内容を硬筆に生かすという構成を各単元でとっている。(P26, 27等)	イ 毛筆題材の頁でも硬筆の試し書き・まとめ書きの欄を設定し、毛筆から硬筆への関連を意識させる構成となっている。(P16等)
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	ア 各学年の学習内容が三分割してあり、それぞれに日常生活に生かして書く活動を取り入れている。	イ 行書の学習が3学年にわたり段階的に配置されている。
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	ア 身のまわりの多様な文字を取材する学習活動では、考えるためのヒントやワークシート例を挙げている。(P108, 109)	イ 課題選択教材を設定している。(P61, 62, 110~113)
その他	⑥今日的な教育課題との関わり等	ア 「文字で心を伝えよう」では、文字を書くことをコミュニケーションの手段として位置づけている。(P28, 29, 94, 95)	イ 「建築と『書』」では発展的な内容として、日本の伝統文化、建築と書の関わりを扱っている。(P84, 85)

国語	書写	番号 38	略称 光村図書出版	書名 中学書写
----	----	-------	-----------	---------

項目		特徴	
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	ア 筆圧を三段階に分けたり、写真を用いたりして、基本的な筆使いを視覚的に示している。(P6, 7)	イ 「三年間のまとめ」では、問題形式で学習内容を確かめることができる。(P54, 55)
	ウ 書き込み欄に熟語を完成する問題を設定している。(P31, 39)	エ 頁を谷折りにして、手本と比較して取り組むワークシートを設けている。(P18, 19)	
内容の構成・配列について	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	ア 学習のポイントを問題形式で提示し、その内容を「学習の窓」で確認できる。(P10等)	イ 運筆の手がかりとなるキャラクターのセリフを随所に配置している。
	ウ 難読漢字等を抜き出して読み仮名とともに示している。(P61等)		
	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	ア 学習内容が見開き1頁で完結する構成をとっている。	イ 各学年の最初の単元の内容が、前学年の最後の学習内容と重なるように設定している。
④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	ア 行書の学習では、1つの手本で1つの特徴を示している。(P26, 28, 34, 36)	イ 「三年間のまとめ」では、3年間で学習したことを一覧にして既習事項を振り返ることができる。(P54, 55)	
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	ア 活字・デザイン文字について使用例を挙げ、特徴や効果をまとめる学習を設定している。(P50~53)	イ 書体・筆記具の使い分けを日常の様々な場面に応じて考える学習を設定している。(P46, 47)
その他	⑥今日的な教育課題との関わり等	ウ 「資料編」では日常の書式や学校生活に書写を生かす例を多く取り上げている。(P59等)	
		ア 「資料編」では情報収集・整理・発信の視点から他教科や生活での活用の仕方を具体的に提示している。(P68~73)	イ 導入部分の「基礎編」で小学校の学習内容を、「コラム」や「発展」では高校書道の足掛かりとなる内容をそれぞれ扱い、校種間の接続を意識することができる。(P6, 8, 20, 58)

地理

社会	地理	番号 2	略称 東京書籍	書名 新しい社会 地理
----	----	------	---------	-------------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 知識の定着として「この章の学習を確認しよう」や「〇〇州・〇〇地方の学習を振り返ろう」で、基本語句と内容の確認をしている。(P20, 58, 189等)</p> <p>イ 技能の習得として「地理スキルアップ」「調査の達人」で資料の調べ方、読み取り方等基礎的・基本的な技能を身につけるようになっている。(P49, 116等)</p> <p>ウ 小学校の学習事項を前見返しと各章の冒頭に設け、小・中の学習を接続している。(P5, 43等) 「分野関連マーク」を設け、各分野とのつながりを意識するようにしている。(P44, 45, 170等)</p> <p>エ 巻末に用語解説や統計資料、農畜産物の写真を掲載している。(P282, 288)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 本文全体に「ためしてみよう」や「ティークレイク」「地理にアクセス」や「インタビューコラム」を設け、興味・関心を持たせるよう工夫している。(P16, 25, 27, 46等)</p> <p>イ 「えんぴつマーク」や「確認」(机マーク)を活用し、思考力・判断力・表現力を高め、言語活動の充実に対応している。(P7, 9等)</p> <p>ウ 各節の終わりに「深めよう」を設定し、発展的な学習に対応している。(P190, 214等)</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫 (単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 第1編に世界地理、第2編に日本地理を配置し、各編とも4章立ての大単元で構成されている。</p> <p>イ 「世界の諸地域」は「アジア州」→「ヨーロッパ州」→「アフリカ州」の順に6州区分の構成となっている。</p> <p>ウ 「日本の諸地域」は九州地方から北海道地方の順に7地方区分の構成となっている。</p> <p>エ 「地形図の見方」の学習が、第2編・第2章「世界から見た日本の姿」と第4章「身近な地域の調査」との2か所に分けられ、第2章では地図記号・等高線等の基礎、第4章では新旧地図の比較等応用へと発展的に活用できるよう構成されている。(P148, 149, 268, 269)</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫 (学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 単元の展開として生徒自ら調査テーマを決定できるよう、第1学年の「世界の諸地域」で学習テーマ、第2学年の「日本の諸地域」で追究テーマが設定されている。(P47, 183等)</p> <p>イ 第1学年の「世界の諸地域」と第2学年の「身近な地域の調査」の調査順序が、「情報収集→テーマ決め→仮説→計画→調査→まとめ→発表」という共通の流れのもと、第1学年で学習した調査方法を活用し、第2学年で発展的に調査できるよう構成されている。(P115, 265)</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 地域調査の例で、世界の地域では韓国、日本の地域では静岡市が取り上げられている。(P116, 264)</p> <p>イ 世界各地の人々の生活と環境で、伝統的な生活とその変化を取り上げている。(P40)</p> <p>ウ アジア州の中で韓国の工業を扱い、地域調査の例でも扱っている。(P48, 49)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わり等	<p>ア 北方領土や竹島、尖閣諸島の位置と島名が明記され、本文には記述があり、写真も掲載されている。(P132, 133)</p> <p>イ 原子力発電のメリット、デメリット、課題や立地条件についての記載がある。(P163, 170)</p> <p>ウ 震災と防災・減災への取り組みの記述がある。(P154, 155)</p> <p>エ 鳥取県関連では、大山スキー場等の写真や本文中に農業の特色などが掲載されている。(P193, 195, 199)</p>

社 会	地 理	番号17	略称 教育出版	書名 中学社会 地理
-----	-----	------	---------	------------

項 目		特 徴
学 習 方 法 の 工 夫 に つ い て	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 知識の定着として「学習のまとめと表現」で、基本語句の内容を確認している。(P40等)</p> <p>イ 技能の習得として「地理にアプローチ」が16項目あり、地図やグラフの見方を確認できる。(P6等)</p> <p>ウ 小学校の学習事項「地理にアプローチ」で、地図やグラフに関する基礎的知識を扱っている。(P6～)</p> <p>エ 「側注解説」や巻末に用語解説があり、巻末に統計資料や農畜産物・鉱産物の写真を掲載している。(P26等)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 「地理の窓」「見てみよう」「インタビュー」、また「点字のしくみ～実際に触って読んでみよう～」で興味・関心を高める工夫をしている。(P17等)</p> <p>イ 「ふりかえる」「学習のまとめと表現(P40等)」「読み解こう」(P37等)で言語活動の充実に対応している。</p> <p>ウ 「特設ページ」を設置し、地域から世界を考えるが6テーマ、現代日本の課題を考えるが7テーマあり、発展的な学習に対応している。(P57等)</p> <p>エ 織り込みページに「地図を活用しよう」という写真が掲載されている。(P121等)</p>
内 容 の 構 成 ・ 配 列 に つ い て	③単元構成の工夫 (単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 第1編に世界地理、第2編に日本地理を配置し、各編とも4章立ての大単元で構成されている。</p> <p>イ 「世界の諸地域」は「アジア州」→「アフリカ州」→「ヨーロッパ州」の順に6州区分で構成されている。</p> <p>ウ 「日本の諸地域」は、日本を南西部、中央部、東北部に3区分し、九州から北海道の7地方区分で構成されている。</p> <p>エ 「地形図の見方」の学習が、巻頭、第2編・第2章「世界から見た日本の姿」と第4章「身近な地域の調査」の2か所あり、本文中での扱いである。第2章では地図記号等の基礎、第4章では縮尺の違い等、応用へと発展的に活用できるよう構成されている。(P142, 143, 252～255)</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫 (学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 単元の展開として、「見てみよう」で学習内容との接続を図り、「ふりかえる」で学習内容の確認を図っている。小単元の1時間目にテーマ設定をしている。日本の小単元のまとめは各地方ではなく3区分の終わりに位置づけられている。</p> <p>イ 第1学年の「世界の諸地域」では、まとめをプレゼンテーション、第2学年の「身近な地域の調査」では発表会を開き、地域への発信を取り入れている。(P119, 120, 263)</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 地域調査の例で、世界の地域では南アジア(インド等)、日本の地域では名古屋市が取り上げられている。(P112, 252)</p> <p>イ 世界各地の人々の生活と環境では世界の言語を扱っている。(P37等)</p> <p>ウ アジア州の中で朝鮮半島を本文中で扱っている。(P43, 48, 49)</p>
そ の 他	⑥今日的な教育課題との関わり等	<p>ア 北方領土や竹島、尖閣諸島の位置と島名が明記され、本文には記述があり、写真も掲載されている。(P130, 131)</p> <p>イ 原子力発電の安全性や課題についての記載がある。(P81, 155)</p> <p>ウ 震災と防災・減災への取組の記述が本文中にある。(P146～149, 236)</p> <p>エ 鳥取県関連は鳥取砂丘の写真を扱っている。(P122)</p>

社 会	地 理	番号46	略称 帝国書院	書名 中学生の地理
-----	-----	------	---------	-----------

項 目		特 徴
学 習 方 法 の 工 夫 に つ い て	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 知識の定着として「各州、各地方」の終わりに「学習をふりかえろう」を設定し、基本語句と内容の確認をしている。(P48, 63, 181等)</p> <p>イ 「技能をみがく」では、技能の習得を25項目設定し、読図や作図等基礎的・基本的な技能の定着を図ろうとしている。(P7等)</p> <p>ウ 小学校の学習事項の確認や技能に関する作業を「やってみよう」で行う設定になっている。(P2, 7等)</p> <p>エ 「用語解説」が適宜ある。(P6, 20等) また、巻末に「世界の家畜・鉱産物」等の写真を掲載している。</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 「導入写真ページ」「声」「羅針盤マーク」のコラム等で、興味・関心を高める工夫をしている。(P34, 53, 57等)</p> <p>イ 各見開きや「学習をふりかえろう」の中に「確認しよう」「説明しよう」等を設け、言語活動の充実に対応している。(P48, 49等)</p> <p>ウ 「学習をふりかえろう」の終わりに「探究しよう」や6テーマからなる「地域を探ろう」、2テーマからなる「トライアル☆地理」等を設け、発展的な学習に対応している。(P148, 180等)</p>
内 容 の 構 成 ・ 配 列 に つ い て	③単元構成の工夫 (単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 第1部に世界地理、第2部に日本地理を配置し、各部とも4章立ての大単元で構成されている。</p> <p>イ 「世界の諸地域」は「アジア州」→「ヨーロッパ州」→「アフリカ州」の順に6州区分の構成となっている。</p> <p>ウ 「日本の諸地域」は九州地方から北海道地方の順に7地方区分の構成となっている。</p> <p>エ 「地形図」の学習が、第2部・第2章と第4章の2か所に分けられ、第2章では地図記号・等高線等の基本事項学習、第4章では新旧地形図の比較等の応用・発展の学習ができるよう構成されている。(P138～141, 269, 272)</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫 (学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 第1学年の「世界の諸地域」の序章では「各州で注目するテーマ」を、第2学年の「日本の諸地域」の序章では「各地方で注目する視点」が示されている。また、小單元ごとに「学習課題」が示されており各単元での学び方・考え方の展開が意識できる構成になっている。(P33, 167等)</p> <p>イ 第1学年の「世界のさまざまな地域の調査」と第2学年の「身近な地域の調査」では調査手順はほぼ共通だが、発表の仕方は第1学年ではポスター、第2学年ではプレゼンテーションの手法を取り入れ、発展的な構成となっている。(P118, 275)</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 地域調査の例で、世界の地域では韓国、日本の地域では練馬区が取り上げられている。(P110, 266)</p> <p>イ 世界各地の人々の生活と環境で、章のはじめに各気候帯の雨温図と解説があり、概観できるようになっている。(P16)</p> <p>ウ アジア州の中で韓国・朝鮮半島は本文中では扱っていないが、地域調査の例の中で扱っている。(P114)</p>
そ の 他	⑥今日的な教育課題との関わり等	<p>ア 北方領土や竹島、尖閣諸島の位置と島名が明記され、本文には記述があり、写真も掲載されている。(P124～127)</p> <p>イ 原子力発電の現状と課題について記載がある。(P156, 157)</p> <p>ウ 地震・津波のメカニズムの紹介や防災についての備え(ハザードマップの読み取り等)の記述がある。(P144～149)</p> <p>エ 鳥取県関連では砂丘の写真や砂丘地農業や漫画のキャラクターを活用した地域おこしの取組の紹介がある。(P183, 193)</p>

社 会	地 理	番号116	略称 日本文教出版	書名 中学社会 地理的分野
-----	-----	-------	-----------	---------------

項 目		特 徴
学 習 方 法 の 工 夫 に つ い て	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 知識の定着として「学習の活用」や「学習のまとめ」で單元ごとに「重要語句」を確認している。(P30, 181等)</p> <p>イ 技能の習得として「スキルアップ」を設け、地理的技能を5種類に整理し、発達段階に応じて系統立てて習得できるようにしている。(P4, 9, 11, 16, 102等)</p> <p>ウ 「連携コーナー」を設け、小学校の学習事項及び歴史的分野・公民的分野との関連を分かりやすく示すことで、小・中の学習及び各分野の学習との関連を図っている。(P2, 64, 76等)</p> <p>エ 巻末に国別資料、県別資料や用語解説、日本の世界遺産の写真等を掲載している。(P270～)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 「地理+α」や「声コーナー」「自由研究」「地域からのメッセージ」「豆知識」を設け、興味・関心を高める工夫をしている。(P4, 43, 44, 180等)</p> <p>イ 「言語活動コーナー」「学習の確認と活用」を設け、思考力・判断力・表現力を高め言語活動の充実に対応している。(P22, 23等)</p> <p>ウ 「学習の活用」を設け、発展的な学習に対応している。(P3等)</p>
内 容 の 構 成 ・ 配 列 に つ い て	③単元構成の工夫 (単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 第1編に世界地理、第2編に日本地理を配置し、各編とも4章立ての大単元で構成されている。</p> <p>イ 「世界の諸地域」は「アジア州」→「ヨーロッパ州」→「アフリカ州」の順に6州区分の構成となっている。</p> <p>ウ 「日本の諸地域」は九州地方から北海道地方の順に7地方区分の構成となっている。</p> <p>エ 「地形図の見方」の学習が第2編・第1章「地形図の見方を知る」と第4章「身近な地域の調査」との2か所に分けられ、第1章では地図記号・等高線等の基礎を本文で扱い、第4章では新旧地図の比較等の応用へと発展的に活用できるよう構成されている。(P126～129, 261)</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫 (学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 第1学年、第2学年ともに同様の単元展開となっている。第1学年「世界の諸地域」と第2学年「日本の諸地域」では、図版を共通の位置・体裁で掲載している。また、学習の導入として世界の各州や日本の各地方をおおまかにとらえたうえで、それぞれの学習課題に迫る学習展開となっている。(P31, 169)</p> <p>イ 第1学年の「世界の諸地域」では、調査の順序を「テーマ決め→仮説→計画→調査→検証→まとめ→発表」とし、第2学年の「身近な地域の調査」では「検証」後に「地域の課題をとらえる」を新たに設け、第1学年で学習した調査方法を活用しつつ、第2学年で発展的に学習できるよう構成されている。(P101～112, 255～268)</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 地域調査の例で、世界の諸地域ではロシア、日本の諸地域では愛知県小牧市が取り上げられている。(P101～112, 255～268)</p> <p>イ 世界各地の人々の生活と環境で、海に生きる人々の暮らしを取り上げている。(P24, 25)</p> <p>ウ 本文中で韓国は、工業に関する記述が中心である。(P38～39)</p>
そ の 他	⑥今日的な教育課題との関わり等	<p>ア 北方領土や竹島、尖閣諸島の位置と島名が明記され、本文には記述があり、写真も掲載されている。(P116～119)</p> <p>イ 原子力発電のメリット、デメリットや原子力発電所再稼働をめぐる動きと再生可能エネルギーについて記載している。(P155～157)</p> <p>ウ 災害・防災の学習では災害対応や復旧、復興を見据えた視点及び国や地方公共団体、地域やボランティアの連携による人命や安全の確保のための活動等を記載している。「地理+α」でも災害・防災について扱っている。</p> <p>エ 鳥取県関連は、過疎地域の努力を守る努力の1つに、第三セクター鉄道として八頭町の写真が掲載されている。(P188) また、地域活性化の取組で日南町を扱っている。(P192)</p>

歷史

社 会	歴 史	番 号 2	略 称 東京書籍	書 名 中学社会（歴史）
-----	-----	-------	----------	--------------

項 目		特 徴	
学 習 方 法 の 工 夫 に つ い て	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	ア 「時代スケール」を見開き左下にコンパクトに提示している。 イ 「歴史スキルアップ」にワークをつけている。（P8, 9等） ウ 各章の導入ページでは、時代を大観できるようにし、章のまとめでも使えるようにしている。（P20, 21等）	
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	ア 「確認」のコーナー（見開き右下）に、「～について説明しよう」という問い方を多く使って、思考力、表現力を養えるようにしている。 イ 「ためしてみよう」で資料活用の課題を設定している。（P52等） ウ 章末の「この時代の特色をとらえよう」で、歴史新聞、年表、比較法、プレゼンテーション等、多様なまとめ方を示している。（P61等） エ 章末の「この時代の歴史の学習を確認しよう」で、単元のまとめができるようにしている。	
内 容 の 構 成 ・ 配 列 に つ い て	③単元構成の工夫（単元の設定・配列の相違等）	ア 各章の導入ページで、小学校の学習内容を振り返り、学習の見通しを持つことができるようにしている。（P20, 21等） イ 各章のまとめページと次の章の扉ページとを年表で連結させ、時代と時代のつながりがイメージできるようにしている。（P62, 63等） ウ 「歴史スキルアップ」（P8, 9等）「歴史探検隊」（P54～57等）「深めよう」（P58, 59等）で学習内容の定着と深化を図っている。	
	④各学年の学習内容の構成の工夫（学び方や考え方の展開の相違等）	ア 第1章で歴史の学び方について14ページを割き、各章の導入ページでは、小学校の学習内容に配慮したイラストや年表を活用する等、小学校から中学校への移行をスムーズにしている。 イ 歴史的分野の最終テーマを「持続可能な社会」に向けて、公民的分野とのつながりを持たせている。（P262, 263） ウ 東京書籍の地理、公民の教科書や地図帳と関連づけがなされている。（分野関連マークの配置。人物の出身地マークと地図帳（東京書籍版）の地方区分のカラーと対応している等）	
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	ア 「環境・エネルギー」「防災・安全」「人権・平和」等の今日的テーマを意識した記述がある。（P262, 263, 268～273等）	
そ の 他	⑥今日的な教育課題との関わり等	ア 人権感覚を養うための記述や現在の社会問題をとらえる資料が多い。（女性コラム、沖縄関連、震災関連、福祉に関する内容等） イ 領土に関して具体的に示されている。（P168, 169, 252, 253等） ウ 特別支援教育の視点から色彩デザインに配慮して編集されている。（裏表紙に明記）	

社 会	歴 史	番号 1 7	略称 教育出版	書名 中学社会（歴史）
-----	-----	--------	---------	-------------

項 目		特 徴	
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	ア 各学習テーマの「学習課題」を明示している。 イ 各ページに世紀区分がスケールで示され、歴史の流れを把握できる。 ウ 「ふりかえる」が確認と活用の2つのステップで構成されている。（ステップ1が基礎・基本） エ 「学習のまとめと表現」（P50, 51等）や巻末の折込年表が、見開きで示され、一目で分かる形にしてある。	
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	ア 「ふりかえる」が確認と活用の2つのステップで構成されている。（ステップ2が活用） イ 「読み解こう」に、資料を読み解くヒントが示されている。（P27等） ウ 単元末の「学習のまとめと表現」が3ページで構成され、基礎・基本から活用まで学習の振り返りができるように構成されている。（P50～52等）	
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫（単元の設定・配列の相違等）	ア 見開きページのタイトルが、興味や関心が高くような言葉になっている。 イ 特設ページ（「郷土の歴史を探ろう」「人物から歴史を探ろう」等）を24テーマ設定し、様々な角度から歴史を掘り下げている。 ウ 近代の単元が2つの章（幕末と明治）に分割されている。	
	④各学年の学習内容の構成の工夫（学び方や考え方の展開の相違等）	ア 第1章「タイムトラベルサミット2016」で、小学校で学んだ人物を示し、既習の学習内容を思い出させることで、中学校の歴史学習につなげている。（P6～10） イ 第1章「歴史にアプローチ」で、干支や年代の表し方、歴史の単位、資料活用の仕方、系図の見方等、歴史を学ぶための準備がていねいに示されている。（P11～14）	
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	ア 点字の歴史（点字の実物）が扱われている。（巻頭5）	
その他	⑥今日的な教育課題との関わり等	ア 領土について、明治時代の領土の画定（P165）、戦後の北方領土問題（P244）で歴史の流れを記載するとともに、現在の中国、韓国、日本の動きを合わせて扱った特設ページを設定している。（P256, 257） イ カラーユニバーサルデザインに配慮した教科書になっている。（裏表紙に明記）	

社 会	歴 史	番号 3 5	略称 清水書院	書名 中学社会（歴史）
-----	-----	--------	---------	-------------

項 目		特 徴	
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	ア 本文が比較的平易な言葉で簡潔にまとめてあり、資料も精選されている。 イ 難しい語句に関する説明がなされている。（「朝貢のしくみ」P24等） ウ 章末のまとめでは、基礎的・基本的な学習内容について振り返りながら、時代を大観できるようにしている。（P56等）	
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	ア 各ページ末「まとめてみよう」の中に、「深めよう」を設定しているところがある。（P11等） イ 特集ページ「歴史のとびら」で資料の読み取り方や調べ学習の方法、手順を示している。（P12, 13, 38, 39等） ウ 巻頭の「Yチャートにまとめながら話しあおう」で時代を大観する方法を示している。	
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫（単元の設定・配列の相違等）	ア 単元の導入で、時代を大観するための問いが設定されている。（P5等） イ 各章のはじめに、世界の様子を学習するテーマを設定したり、「地図でみる世界史」を掲載したりして世界史を学ばせ、その上で日本史を学ぶ流れになっている。 ウ 歴史の地域調査活動「身近な地域を調べよう」が、近世の章末に設定されている。（P138～143）	
	④各学年の学習内容の構成の工夫（学び方や考え方の展開の相違等）	ア 人物に関する記述を多くしたり、人名さくいんに人物のイラストを示したりと、小学校の学習内容とつながりを持たせている。（P276～279） イ 巻頭に世界地図を折り込み、世界から見た日本、日本から見た世界が意識できるようにしている。	
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	ア 「もっと知りたい歴史」で民衆の視点から歴史をとらえさせている。（P224, 225等） イ 中世以降は、経済史、産業史の内容が多く見られる。（例：江戸時代P116～123） ウ 近代の単元で、中国や朝鮮、ソ連（ロシア）等近隣諸国について具体的に記載している。 エ 専門的な用語で説明しているところがある。（「水稲耕作」（P22）、「一地一作人」（P102）、「身分統制令」（P102）等）	
その他	⑥今日的な教育課題との関わり等	ア 領土について、「領土の確定」に示されている。（P178） イ 歴史の視点から、防災・減災に関して記述している。（巻頭折込, P270） ウ 「身分制度の廃止と国民の形成」（P168, 169）「家制度と女性」等、人権に関して深く考えさせる内容がある。（P201） エ ユニバーサルデザインのフォントを使用している。（裏表紙に明記）	

社 会	歴 史	番号 4 6	略称 帝国書院	書名 中学社会（歴史）
-----	-----	--------	---------	-------------

項 目		特 徴	
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	ア 見開きページごとに学習課題が明示され、学習課題に対応する形で「確認しよう（基礎基本）」と「説明しよう（活用・表現）」を設定している。 イ 「技能をみがく」を設定し、歴史資料の活用法について記載している。（P8等 1 1 テーマ） ウ 巻末「人物さくいん」に凡例を示し、どの分野で活躍した人物か掲載している。（P264, 265）	
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	ア 「歴史を探ろう」（1 1 テーマ）や「トライアル歴史」（2 テーマ）で、「なぜ」「どうして」といった形で問いを示し、既習事項を活用しながら学びを深めるようにしている。 イ 各部末の「学習をふりかえろう」で「確認しよう（基礎・基本）」と「説明しよう（活用・表現）」を設定し、思考力や表現力を養いながら、時代を大観できるようにしている。 ウ 本文中の多くの語句や文に、関連ページを表示している。 エ 「解説」コーナーを設け、難しい用語について説明をしている。（上P17「朝貢」等）	
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫（単元の設定・配列の相違等）	ア 見開き左上の資料を大きく示し、導入部分で興味関心を高めるようにしている。 イ 「〇〇時代をふりかえって」で各時代の特徴を示し、時代を大観させるようにしている。（下P41等）	
	④各学年の学習内容の構成の工夫（学び方や考え方の展開の相違等）	ア 第1部の「歴史の流れと時代区分」（P1～5）「歴史の調べ方・まとめ方・発表の仕方」（P6～11）で、歴史を学ぶ準備としている。 イ 各部末の「学習をふりかえろう」で、新聞やカード、手紙等、様々な方法で時代の特徴を表現できるようにしている。（P85, 137, 193等） ウ 各章はじめの「タイムトラベル」で、前時代と比較したり、疑問点を発見したりして、時代全体のイメージを膨らませている。（P20） エ 歴史に関連する地図が多く掲載されている。（巻末資料等）	
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	ア 各時代の文化史が4ページで構成され、写真等の資料も多い。（P38～41等） イ 各章のはじめの「タイムトラベル」が同じ視点（各時代のムラ、町の様子）でイラスト表現され、導入で時代像を把握したり、各時代の様子を比較したりしながら、時代の変化をとらえるようにしている。	
その他	⑥今日的な教育課題との関わり等	ア 戦争に関して、様々な立場の視点で記述されている。 イ 領土について、本文中だけでなく「歴史を探ろう」でもまとめて掲載している。（P246, 247） ウ 自然環境、人権、交流、平和のテーマをコラム（羅針盤マーク）で記載している。（P47等） エ 北海道と沖縄についての記述が充実している。（P70, 71, 168, 169等） オ カラーバリアフリーを含むユニバーサルデザインに配慮されている。（裏表紙に明記）	

社 会	歴 史	番号 1 1 6	略称 日本文教出版	書名 中学社会（歴史）
-----	-----	----------	-----------	-------------

項 目		特 徴	
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	ア 各編はじめの資料で時代の大きな特色をつかむことができ、「『〇〇〇〇』の特色を探っていこう」で学ぶポイントを確認することができる。（P14, 15等） イ 各ページの左側に時代スケールを掲載し、学んでいる時代をすぐに分かるようにしている。 ウ 各ページの学習課題の下に、見開きページでポイントとなる言葉を明記している。 エ 「学習の確認と活用」で、ページごとの学習を振り返るとともに、思考力や表現力も養うことができる。	
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	ア 言語活動のコーナーが「読み取ろう」「考えよう」「伝えよう」に分けてあり、言語活動の質の向上が意識されている。（P27等） イ 「読み取ろう」で資料を読み取る視点が示されている。（P16等） ウ 「歴史を掘り下げる」で歴史学習の幅を広げるテーマを設定している。（P74, 75等10テーマ） エ 各編の最後に「学習の活用」を設定し、年表と地図で編の学習を振り返ることができるようにしている。（P56, 57等）	
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫（単元の設定・配列の相違等）	ア 章のはじめに「地図で見る世界の動き」を設定し、世界的内容から章の学習をスタートさせている。	
	④各学年の学習内容の構成の工夫（学び方や考え方の展開の相違等）	ア 第1編の「歴史のとらえ方」（P6～8）で、小学校の学習内容とつなげた上で「歴史学習の基礎資料」をコンパクトに掲載し、歴史学習のスタートとしている。（P12, 13） イ 各編に「とらえよう！時代の転換」を設定し、前時代とつなげたり比較したりしながら学びを深めることができる。（P66, 67等）	
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	ア 江戸の産業の発達と都市に関する記述、資料が充実している。（P128～131）	
その他	⑥今日的な教育課題との関わり等	ア 「現代史＋α」で、中国・韓国との領土についての課題を取り上げている。（P265） イ 「先人に学ぶ」「でかけよう地域調べ」等の特集ページやコラムを通して、平和、防災、環境等について取り上げている。（P240, 241等） ウ 特別支援教育・カラーユニバーサルデザインに配慮された教科書になっている。（裏表紙に明記）	

社 会	歴 史	番号 2 2 5	略称 自由社	書名 中学社会（歴史）
-----	-----	----------	--------	-------------

項 目		特 徴	
学 習 方 法 の 工 夫 に つ い て	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	ア 見開きページの学習課題を明記している。 イ 章末に「〇〇とはどんな時代か」というテーマで学習のまとめを設定し、会話、時代比較、人物比較、ひとこと作文、意見交換会の形で単元の整理ができるようにしている。	
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	ア 見開きページごとに「まとめにチャレンジ」が設定されている。 イ 「もっと知りたい」「外の目から見た日本」で発展的な学習につなげている。(P28, 29等35テーマ) ウ 章末に「歴史豆辞典」を設定し、各章の重要語句について、100字程度でまとめている。(P80等)	
内 容 の 構 成 ・ 配 列 に つ い て	③単元構成の工夫 (単元の設定・配列の相違等)	ア 中世の文化(鎌倉文化と室町文化)について、連続して学ぶことができるようにしている。(P102~105) イ 戦国時代の内容は、一般的には中世に含まれるが、近世の単元に掲載している。(P110, 111) ウ 一冊を通して見開きページの番号が通し番号になっている。(1~91の番号がふられている)	
	④各学年の学習内容の構成の工夫 (学び方や考え方の展開の相違等)	ア 章末の「〇〇とはどんな時代か」の中で、各時代との比較をさせ、既習内容を活用できるようにしている。 イ 序章「歴史のとらえ方」で時代区分や調べ方、まとめ方を解説している。(P7~24)	
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	ア 神話や天皇について具体的な記述がなされている。(P44, 45, 266, 267等) イ 宗教に関して詳しく記載されている。(P36, 37) ウ 第5章の第2節「第二次世界大戦と日本」について、多様な資料を活用しながら詳細に記載している。また、「支那事変(P233)」、「大東亜戦争(P238)」といった、当時の呼称による記載も見られる。 エ 日本や日本人の良さに関する記述や資料がみられる。(巻頭資料「日本の伝統工芸品」等)	
そ の 他	⑥今日的な教育課題との関わり等	ア 領土の画定について、地図を用いて記述している。また、北方領土についての記載は、北海道の地図が示され具体的である。(P172) イ 教科書の大きさが従来どおり(B5版)で、巻頭資料「歴史を学ぶとは」のテーマに沿って、掲載資料が精選されている。	

社 会	歴 史	番号 2 2 7	略称 育鵬社	書名 中学社会（歴史）
-----	-----	----------	--------	-------------

項 目		特 徴		
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	ア	各章導入の「歴史絵巻鳥の目でみる〇〇」で、イラストを用い、時代を大観できるようにしている。（P14, 15等）	
		イ	各見開きページの学習課題と学習のまとめの一貫性が保たれている。	
		ウ	単元末の「学習のまとめ」が年表・写真・地図を用い基礎・基本をおさえた上で、活用も意識したつくりとなっている。（P62, 63）	
内容的構成・配列について	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	ア	各章導入の「虫の目で見る〇〇」で、歴史資料から時代を大観した上で、章の学習に入るようにしている。（P16, 17等）	
		イ	見開き各ページ右下のまとめや、章末の学習のまとめで、思考力、表現力を養う課題が設定されている。	
		ウ	「歴史ビュー」「歴史にズームイン」「人物クローズアップ」のコラムで、学んだ内容が深まるようになっている。（P29, 38, 55等）	
内容的構成・配列について	③単元構成の工夫（単元の設定・配列の相違等）	ア	単元はじめの「虫の目で見る〇〇」で、時代を特徴づける資料を示し、興味関心を高めている。	
		イ	各章に「このころの世界は」を設定し、各時代の歴史をグローバルな視点で見ることができるようになっている。（P32等）	
		ウ	巻末に「日本の歴史を大観する」を設定し、歴史学習全体のまとめができるようになっている。（P278, 279）	
内容的構成・配列について	④各学年の学習内容の構成の工夫（学び方や考え方の展開の相違等）	ア	「歴史絵巻鳥の目で見る〇〇」を人物中心に構成し、小学校での学習内容を振り返ることができる。	
		イ	各章に「このころの世界は」を設定し、日本と世界をつなげ、歴史の見方が広がるようになっている。（P32, 33等 6テーマ）	
		ウ		
内容的構成・配列について	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	ア	天皇、神社、神話に関する記述、資料が多い。（P50, 51, 257等）	
		イ	人物の肖像画や写真が多く掲載されている。	
		ウ	巻頭に「日本の美」を紹介し、文化史を流れで捉えることができる。	
		エ	「帰化人（渡来人）」、「共産主義」といった表現が使われている。	
その他	⑥今日的な教育課題との関わり等	ア	領土について、明治時代の「国境の画定」のところで記載され、日本の立場を簡潔に示している。（P173）	
		イ	各章に「なでしこ日本史」のコラムを設定し、各時代の女性に視点を当てている。（P64等）	
		ウ	太平洋戦争について、様々な立場の人の証言から、当時の人の考えや思いを掲載している。（P242, 243）	

社 会	歴 史	番号 2 2 9	略称 学び舎	書名 中学社会（歴史）
-----	-----	----------	--------	-------------

項 目		特 徴	
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	ア 各部ごとに、ゲームやクイズ等を使って、学習内容の振り返りができるようになっている。 (P54, 55等)	イ 各部ごとに、時代の学習課題を明記し、学ぶ内容を焦点化している。(P11等)
	ウ 卷末の年表が、資料や説明と一緒に掲載されている。(P294~313)	エ 索引の掲載語句を多くし、重要語句を調べやすい形をとっている。(P314~323)	オ 教科書のサイズ(A4版)が大きく、資料等が見やすい。
内容の構成・配列について	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	ア 専門性が高い内容が掲載され、より深く歴史を学ぶことができる。(見開きページ右下のコラム等)	イ 学習内容について詳しく記載されているため、予習や復習等、家庭学習にもつなげることができる。
	ウ 「歴史を体験する」のコーナーを設定し、生活の中で歴史を実感できるようにしている。 (P30等6テーマ)	ア タイトルを学習内容に興味を持たせるものにし、サブタイトルで学習内容を明確にしている。	イ 各章はじめのページで世界地図を示し、世界とのつながりを意識させている。
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫 (単元の設定・配列の相違等)	ウ 戦国時代を近世の区分に掲載している。	エ 卷末年表中に基礎・基本の内容について記載し、本文中に詳しい記述をしている。
	④各学年の学習内容の構成の工夫 (学び方や考え方の展開の相違等)	ア 「歴史への案内」で、小学校で学んだことを活用して歴史カードを作ったり、年表を作ったりするコーナーを設定している。(P6, 7)	
その他	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	ア 人(民衆)を軸として歴史を見ていく構成になっている。(P280, 282等)	イ 文化史をまとめて記載せず、時代の流れに沿った形にしている。
	⑥今日的な教育課題との関わり等	ウ 第5部「二つの世界大戦」の記述が専門的、具体的で、様々な資料が使われている。	エ 本文中に太字で示される語句がなく、語句を覚えさせる形でなく、内容の理解を促す構成になっている。
		オ 卷末年表の時代区分を「本州」「北海道」「沖縄」で分けている。	ア 領土について簡潔に示している。 (竹島:P199, 尖閣諸島:P195, 北方領土:P267)
		イ 人権について考えさせる記載が多い。 (社会運動:P216, 217, ハンセン病:P219, 戦後の教育:P262, 263等)	ウ 地図の向きや形を変えているところがある。 (P125, 238等)

公民

社会	公民	番号	2	略称	東京書籍	書名	新編新しい公民
----	----	----	---	----	------	----	---------

項目		特徴	
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	ア	1単位時間の学習（見開き2頁）毎に学習課題を設定し、学習課題に関連した言語活動の課題（「机マーク」）を示している。
		イ	「分野関連マーク」を示し、地理・歴史・公民の3分野の関連が分かるように工夫されている。（P9等）
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫（単元の設定・配列の相違等）	ア	本文での学習内容を補充するために「公民にアクセス」が設けられており、関連した知識の習得ができるように工夫されている。（P15等）
		ウ	
内容の構成・配列について	④各学年の学習内容の構成の工夫（学び方や考え方の展開の相違等）	ア	「公民にチャレンジ」では、個人やグループで作業や活動ができるように工夫されている。（P49等）
		イ	「効率と公正」のマークで示した話し合い活動の場面を17か所設定し、各視点に基づいて自ら考えることができるようにしている。（P60等）
内容の構成・配列について	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	ア	終章に「よりよい社会を目指して」を設定し、中学校3年間の学びをレポートでまとめられるようにしている。（P205～212）
		イ	章の導入ページとまとめのページに関連性があり、学習したことを生かしながら、まとめの学習活動ができるように工夫されている。（P34, 35, 68, 69等）
その他	⑥今日的な教育課題との関わり等	ア	章の冒頭で、小学校の学習や地理・歴史の内容を振り返る資料を掲載し、9年間のつながりを意識させるように工夫されている。（P5等）
		イ	第1章1節の中で、見開き2頁の「持続可能な社会に向けて」を扱い、「持続可能な社会」に向けて課題や解決の視点を提示し、全ての章の学びにつながるものとなるように工夫されている。（P14, 15）
その他	⑥今日的な教育課題との関わり等	ア	生徒自らが設定したテーマに基づいてレポートが書けるよう、終章「よりよい社会を目指して」の中で、レポート作成の手順を示している。（P205～212）
		イ	終章の中に「調査の達人」のコーナーを設け、調査学習を進めるうえでの基礎的・基本的な技能を身につけられるようにしている。（P208, 209）
その他	⑥今日的な教育課題との関わり等	ア	第5章の中の「やってみよう」では、仮想の国での出来事を考えさせることで、地球社会で起こるさまざまな課題について考えさせるようにしている。（P168, 169, 202, 203）
		イ	見開き2頁の「公民にアクセス」のコーナーで「日本の領土をめぐる問題の現状」として、「竹島問題」「北方領土問題」「尖閣諸島をめぐる問題」を取り扱っている。（P196, 197）

社会	公民	番号 17	略称 教育出版	書名 中学社会公民ともに生きる
----	----	-------	---------	-----------------

項目		特徴	
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	ア	1単位時間の学習（見開き2頁）毎に、「学習課題」と「ふりかえる」を設定して、基礎・基本の定着を図っている。
		イ	章ごとの終末で、「学習のまとめと表現」のページを設定し、重要語句の確認をしたり、重要語句を使って説明したりできるようにしている。（P32等）
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	ア	「読み解こう」のコーナーがあり、学習内容をさらに深め考えさせるようにしている。（P17等）
		イ	各章の「はじめに」の中で「章のねらい」が明示され、生徒が見通しを持って学習を始められるように工夫されている。（P13等）
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫（単元の設定・配列の相違等）	ア	各章に「はじめに」という時間を設定し、その章の学習について捉えさせると共に、その単元を学習する意義について考えさせるようにしている。（P12, 13）
		イ	教科書の終末の「私たちにできること」という章で、社会の一員としてこれから自分がどのように行動していくべきかを考えさせる単元を設定している。（P207～214）
	④各学年の学習内容の構成の工夫（学び方や考え方の展開の相違等）	ア	「言葉で伝え合おう」では、表現活動を中心としたテーマ学習が設けられており、言語活動の充実が図れるように工夫されている。（P30等）
イ		新聞記事を掲載し、学習内容をさらに深められるように工夫されている。（P44等）	
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	ア	「公民にアプローチ」の「新聞を活用しよう」で、新聞の活用の仕方について学べるように工夫されている。（P6～9）
		イ	教科書終末の章「私たちにできること」で、「未来への私の約束」を書かせる活動を設定し、課題追究と表現する力を高めるように工夫されている。（P210～213）
その他	⑥今日的な教育課題との関わり等	ア	第6章の「はじめに」の中で、領土問題について触れている。（P178, 179）
		イ	領土問題に関しては、本文の「日本の領土をめぐって」の中で取り扱い、さらに「読んで深く考えよう」の「日本の外交のいま」の中で、日本が直面している外交に関する課題等が掲載されている。（P181, 188, 189）
		ウ	点字の現物とともに点字のしくみが説明されている。

社会	公民	番号 35	略称 清水書院	書名 中学公民日本の社会と世界
----	----	-------	---------	-----------------

項目		特徴	
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	ア 1単位時間の学習(見開き2頁)毎に「学習目標」が設定されており、学習課題が明確に示されている。 イ 「補足説明」として、教科書本文の記述内容を補足し、深める記述があり、学習内容を分かりやすくしている。(P29等)	
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	ア 特設ページとして「深める公民」があり、学習に関連するテーマを掘り下げて解説している。(P32, 33等) イ 特設ページとして「もっと知りたい公民」があり、学習に関連するテーマを図版や写真を用いて解説している。(P12等) ウ 序章と編の扉頁に学習内容に関係のある人物や、その人物の言葉等が紹介されており、学習への興味・関心を持たせるように工夫されている。(P25等)	
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	ア 「私たちと現代社会」という序章を設定し、学習内容を整理すると共に、学びの方向を示している。(P7~24) イ 国民主権と平和主義の章が日本国憲法の章から独立して設定されている。(P60~91, P92~98) ウ 章を束ねる編を設け、学習内容が「政治」「経済」「国際社会」の3つに整理されている。	
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	ア 編ごとのまとめのページでは、重要語句の確認ができ、学習内容を生徒自身が整理できるように工夫されている。(P98等) イ 「風船マーク」を用い、学習内容を深めるために話し合ったり調べたりするための視点を示している。(P37等)	
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	ア 学習の最後の節の「もっと知りたい公民」では、「卒業論文を書いてみよう」というテーマで、社会科の学習のまとめをレポートでまとめられるようにしている。(P186, 189)	
その他	⑥今日的な教育課題との関わり等	ア 「風船マーク」等で今日的な課題についても取り上げ、話し合いや調べ学習を通して、生徒が課題に目を向けるように工夫されている。(P173等)	

社会	公民	番号 46	略称 帝国書院	書名 社会科中学生の公民
----	----	-------	---------	--------------

項目		特徴	
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	ア 1単位時間の学習(見開き2頁)毎に「学習課題」を設定しており、目標が明確に示されている。 イ 1単位時間の学習(見開き2頁)毎に「確認しよう」(鉛筆マーク)を設け、学習内容の定着が図れるようにしている。 ウ 各章の終末の「学習をふりかえろう」で「確認しよう」(鉛筆マーク)を設定し、重要語句等を確認できるようにしている。(P28等)	
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	ア 1単位時間の学習(見開き2頁)毎に「説明しよう」(鉛筆マーク)を設け、学んだことを書いたり、話して伝えたりすることで表現力が身に付くようにしている。 イ 「トライアル公民」では、学びを生かした意見交換ができる場面を設定している。また、その中で「技能をみがく」を設定し、公民の基礎的な技能を身に付ける方法を紹介している。(P26, 27等) ウ 単元のはじめの「クローズアップ」で多くの写真や図版を用いて、興味・関心を高めるための工夫がされている。(P4等)	
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	ア 各部のはじめに、「学習の前に」を設定し、イラスト等を活用して学習内容を身近な出来事と関連付けて考えられようようにしている。(P2, 3等) イ 「学習の前に」のイラストは、部を通して活用できるようにしている。(P2, 3等)	
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	ア 「地理・歴史を振り返る」を活用し、1・2年の学びが再確認できるようになっている。(P6等) イ 新聞記事を掲載し、さらに学習内容を深めるようにしている。(P62等)	
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	ア 「持続可能な社会の実現」に向けてどんな取組ができるかを分類ごとに相関ページを記載し、学習をふり返ることができるようにしている。(P198) イ 最終部において、社会科学習のまとめができるようにレポート作成の手順を示している。(P199~203)	
その他	⑥今日的な教育課題との関わり等	ア 「領土をめぐる問題」が見開き2頁の1つの学習単元として扱われている。(P168, 169)	

社会	公民	番号 1 1 6	略称 日本文教出版	書名 中学社会公民的分野
----	----	----------	-----------	--------------

項目		特徴	
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	ア 1 単位時間の学習（見開き 2 頁）毎に「学習課題」と「学習の確認と活用」を設定し、基礎基本の定着を図っている。 イ 各編の終末「学習の整理と活用」の中に、「合意を考えるための問題」が設定されており、公民学習で付けたい力が高まるようにしている。（P30等）	
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	ア 「アクティビティ」では、学習内容に関連して、生徒が考えたり、話し合ったりできるような活動を提示している。（P5等） イ 「チャレンジ公民」（P72等）「学習の確認と活用」（P5等）では、生徒が話し合いやすい内容を多く設定しており、学びを深められるようにしている。	
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫（単元の設定・配列の相違等）	ア 政治分野の学習が、政治参加・地方政治・国政の順となっており、身近な政治参加から考えさせるようにしている。 イ 各編の最初に「〇〇ナビ」を設定し、その単元の基礎を学べるようにしている。（P32等）	
	④各学年の学習内容の構成の工夫（学び方や考え方の展開の相違等）	ア 「チャレンジ公民」（P72等）「学習の確認と活用」（P5等）「読み取ろう・考えよう・伝えよう」（P9, 59等）では、言語活動の充実を図る学習が設定されている。 イ 新聞記事の掲載が多数あり、新聞から学べるようにしている。（P3等） ウ 2015年の記事を掲載するなど、最新の写真や記事が多く使われている。（P67等）	
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	ア 教科書の終末「私たちの課題」では、「持続可能な社会を作る」をテーマとしたレポートを作成し発表するため、11ページ構成とし、説明や情報を充実させている。（P206～216） イ 各編の終末「チャレンジ公民」では、習得した知識を活用し、「対立と合意」「効率と公正」の視点から考えた内容が、第5編のレポート作成に役立つように設定されている。（P172等）	
その他	⑥今日的な教育課題との関わり等	ア 領土問題に関しては、本文の中に「日本の領土をめぐる問題」というテーマを掲げ、北方領土・竹島・尖閣諸島について、記述している。（P179）	

社会	公民	番号 2 2 5	略称 自由社	書名 新しい公民教科書
----	----	----------	--------	-------------

項 目		特 徴	
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	ア	1 単位時間の学習（見開き 2 頁）毎に学習課題を明示している。
		イ	1 単位時間の学習（見開き 2 頁）毎に「ここがポイント」を設け、その時間の学習内容（要点）を簡潔に示している。
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	ウ	章末の「学習のまとめ」で、各章の最重要語句を示し、振り返れるよう工夫されている。また、最重要語句に関連した「3つの問題」（xi頁に示されている問題）に挑戦できるようにしている。（P18等）
		ア	関連する学習や発展的な学習として「もっと知りたい＜ 2 1 テーマ＞」を設け、興味を持たせたり、学習を深めたりするように工夫されている。（P12等）
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫（単元の設定・配列の相違等）	イ	「ミニ知識」という形で、学習に関連する詳しい情報を掲載している。（P11, 22等）
		ア	「序章：現代日本の自画像」を設け、日本の歴史や文化にも触れながら、日本という国を捉えられるように工夫されている。（P1～18）
配列について	④各学年の学習内容の構成の工夫（学び方や考え方の展開の相違等）	イ	「1 章：個人と社会生活」の中で、「家族愛・愛郷心から愛国心へ」といった学習を設定している。（P32, 33）
		ア	章末「学習の発展」で、文章でまとめさせる課題を設定し、生徒の思考力・判断力・表現力を高めるように工夫されている。（P18等）
その他	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	ア	終章に「持続可能な社会を目指して」を設定し、社会科の学習のまとめができるようにしている。
		イ	終章の「持続可能な社会を目指して」では、課題の探究方法を示したり、「対立」と「合意」、「効率」と「公正」について体験的に学ぶための方法を示したりしている。（P177～194）
その他	⑥今日的な教育課題との関わり等	ア	「もっと知りたい」で、以下の内容を取り上げている。（各見開き 2 頁） <ul style="list-style-type: none"> ・わが国の安全保障問題（P74, 75） ・わが国の領土に関する問題（P148, 149） ・日本人拉致問題（P162, 163） ・国連平和協力活動への取組（P166, 167）
		イ	巻末（裏表紙の裏）に「わが国の領域」を図示し、北方領土、竹島、尖閣諸島、沖ノ鳥島に関して解説を掲載している。

社会	公民	番号 2 2 7	略称 育鵬社	書名 新編新しいみんなの公民
----	----	----------	--------	----------------

項 目		特 徴	
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	ア	1 単位時間の学習(見開き 2 頁)毎に、最初に学習課題を提示し、その課題に迫る活動を「えんぴつマーク」で明示している。
		イ	各章の最後に「学習のまとめ」があり、重要語句が確認できる。(P42等)
内容の構成・配列について	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	ア	「理解を深めよう」「考えよう」で学習内容に関連した情報が示されており、深く学習できるように工夫されている。(P66, 67, 70等)
		イ	「人生モノサシ」の活動を通して、自分自身と現代社会とのつながりを実感できるように工夫されている。(P4, 5)
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	ア	国会・内閣・裁判所の学習の前に「三権分立」を取り上げ、3つの機関の関連を先に学習させる単元構成となっている。(P96～109)
		イ	各章の冒頭に関連する写真を引用し、学習の興味・関心を高めさせるよう工夫されている。(P44, 45等)
		ウ	第 2 章以降には、「どうして〇〇を学ぶの?」「〇〇を学習するにあたって」で単元の導入に学習意識を持たせるよう工夫されている。(P44, 45等)
内容の構成・配列について	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	ア	第 2 章以降の導入に「〇〇の入り口」(法・政治・経済など)が設けられ、章の学習内容を捉えるための言語活動の場面が設定されている。(P44, 45等)
		イ	各章の最後「学習のまとめ」で、章全体の学習を通して自分の考えをまとめ、発表するなど、言語活動の充実を図るように工夫されている。(P42等)
		ウ	どの単元でも多くの新聞記事を引用している。(P14等)
内容の構成・配列について	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	ア	我が国の伝統文化について、多くの資料(写真など)を提示している。地域の祭りを調べる活動を通して、郷土に対する興味・関心を高めるように工夫されている。(P28, 29, P34～37)
		イ	「私は内閣総理大臣」という学習活動の中で、持続可能な社会を築くための国づくり構想を、生徒自らがレポートで作成できるように工夫されている。(P209～216)
その他	⑥今日的な教育課題との関わり等	ア	領土をめぐる問題として「北方領土」「竹島」「尖閣諸島」について、多くのページで外務省の公式見解やかつての写真など、多様な資料を提示している。(P176～179)
		イ	見開き 2 頁を使い「北朝鮮による日本人拉致事件」の特集を組んでいる。(P182, 183)

地图

社会	地図	番号 2	略称 東京書籍	書名 新しい社会 地図
----	----	------	---------	-------------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	ア 巻頭で地図記号や地図帳の構成の案内、活用例が記載されている。(P4, 5, 6) イ 主な歴史の舞台が地図上に紫枠で示されている。(P77)
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	ア 「基本資料」「テーマ資料」がページ上部に目立つように示してあり、生徒自ら地図を活用して学習に取り組めるように配慮してある。(P113等) イ 「ジャンプ」で関連する資料の場所が示してある。(P115等)
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫 (単元の設定・配列の相違等)	ア 「世界全体→世界の各州→日本各地方→日本全体と統計資料」の順に構成されている。 イ 鳥瞰図では陸地と海底の様子を記述している。(P61等)
	④各学年の学習内容の構成の工夫 (学び方や考え方の展開の相違等)	ア 基本資料、テーマ資料とも地理の教科書との関連性があり教科書との連携がはかられており、様々な調べ学習に使用できるよう多岐にわたる資料が示されている。 イ 地形図の読み取りが設定されている。(P132)
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	ア 歴史的、公民的分野と関連する資料が掲載されている。(P13, 14, 22) イ 事項別索引でも、古代文明や地球環境といった項目をあげ歴史的・公民的分野と関連性をもたせている。(P177) ウ 日本全体の資料の中にある人口、エネルギー、産業等のテーマごとに示された資料には、世界の国々と日本の図があり、互いの関連性を読み取れるようにしている。(P137等)
その他	⑥今日的な教育課題との関わり等	ア 世界の環境問題や日本の災害・環境問題を見開きページで紹介している。(P11~14, 135, 136) イ 北方領土、竹島、尖閣諸島は島名と国境線が示されており、竹島は特別に枠を設け島根県に属していることが明示されている。(P83)

社 会	地 図	番号46	略称 帝国書院	書名 中学校社会科地図
-----	-----	------	---------	-------------

項 目		特 徴
学 習 方 法 の 工 夫 に つ い て	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	ア 巻頭に地図記号、地図帳の使い方、地域の特色をとらえるポイントを例示している。(P4~8) イ 歴史学習の基本事項が地図上に紫枠で示されている。 ウ 鳥瞰図にイラストや絵記号を設けている。(P25, 26, 51, 52) エ 世界の各地域で同緯度・同経度・同縮尺の日本を表示している。(P57, 58)
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	ア 「やってみよう」や「地図をみる目」で、地図を見る着眼点を示したり、読み取りの支援をしたりしている。(P20, 38等) イ 「日本との結びつき」で、貿易等外国と日本との関係を示している。(P36, 41等)
内 容 の 構 成 ・ 配 列 に つ い て	③単元構成の工夫 (単元の設定・配列の相違等)	ア 「世界全体→世界各州→日本の各地域→日本全体」と統計資料という構成になっている。 イ 地域の姿と特徴が視覚的に捉えられるよう、鳥瞰図をとりいれ、大観できるようになっている。(P25, 26, 51, 52)
	④各学年の学習内容の構成の工夫 (学び方や考え方の展開の相違等)	ア 世界の各州と日本の各地方の資料は、最初に州ごと地方ごとの自然と生活が大観でき、その後で内容やテーマを限定せずに様々な調べ学習に使用できるよう、自然・文化・人口・産業等の多岐にわたる資料が示されている。 イ 地形図のページが設けてあり、課題を解決していくことで地形図を読み取る学習ができるようにしている。(P8)
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	ア 歴史的分野と関連する資料が掲載されている。(P31, 103等) イ 世界全体と日本全体の資料には「世界の衣服、食事と日本の共通点は？」等、テーマごとに大きな課題が設定されている。(P15, 139等) ウ 日本全体の資料の中にある人口、エネルギー、産業等のテーマごとに示された資料には、世界の国々と日本両方の図があり、互いの関連性を読み取れるようにしている。(P145等)
そ の 他	⑥今日的な教育課題との関わり等	ア 世界の環境問題や日本の災害・防災問題を見開きページで紹介している。(P13, 14, 143, 144) イ 北方領土、竹島、尖閣諸島は写真付きで島名と国境線が明示されている。また「日本固有の領土」と明記されている。(P75~80)

数学

数 学	数 学	番号 2	略称 東京書籍	書名 中学数学
-----	-----	------	---------	---------

項 目		特 徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 「たしかめ」では、「例」と同じ型で数値のみを変えた問題で、「例」と「問」の段差によるつまずきを解消している。(1年P11等)</p> <p>イ 「まちがい例」では多くみられる誤答例を取り上げ、誤りを見つけ正しく直すことで同じ誤りを繰り返さないようになっている。(1年P69等)</p> <p>ウ 学習課題を明示することで学習に見通しを持たせ学ぶ意欲を高め、「数学的活動」に主体的に取り組めるようになっている。</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 「ちょっと確認」では、既習事項をワンポイントで取り上げ、「算数のふりかえり」も活用し、自分で確認できるようになっている。(1年P74, 228～等)</p> <p>イ 章末・巻末の問題では、習熟度に応じた問題に取り組むことで学習したことが確認できるようになっている。(1年P48, 49, 236～等)</p> <p>ウ 「もっと練習」では、「問」で取り上げられていない型や少し難しい問題を取り上げ、「問」をやり終えた後に発展的に取り組めるようになっている。(1年P87等)</p> <p>エ 作図のページで、具体的にコンパスの使い方がわかるように示しており、操作活動を意図した設定になっている。(1年P154)</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定配列の相違等)	<p>ア 二次方程式の解き方では、「平方根」→「解の公式」→「因数分解」の順になっている。(3年P70～)</p> <p>イ 比例反比例では、「関数」という節が設定されている。(1年P104～)</p> <p>ウ 平面図形では、「移動」→「作図」→「円・おうぎ形」の順になっている。(1年P140～)</p> <p>エ おうぎ形の計量の中心角の求め方が「空間図形」の中に扱われている。(1年P190～)</p> <p>オ 三角形の相似条件の後に「縮図の利用」の内容が扱われている。(3年P132～)</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 2年の図形の導入は、用語等の知識を与える学習ではなく、四角形・五角形等の多角形の内角和を考える学習から始まっている。(2年P92～)</p> <p>イ 作図では、「垂直二等分線」「角の二等分線」「垂線」の作図が2つの円の共通弦の性質を用いて説明されている。(1年P153～)</p> <p>ウ 素因数分解は「平方根」の中に位置づけられている。(3年P46～)</p> <p>エ 一次関数の利用では、節の中に事象を「一次関数とみなす」という表現があり、数学的な見方について説明されている。(2年P81～)</p> <p>オ 2けたの整数や偶数の表し方を1年の文字式の利用で学習している。(1年P76)</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア ページの右上にパラパラまんがの手法(1年P177～205等)や、基本の作図の導入にページを折って考える操作活動(1年P157, 159)が取り入れられている。</p> <p>イ 各章の特徴が生活に密着した内容で紹介され、知的好奇心を喚起する設定になっている。(1年P104, 105等)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わり等	<p>ア 随所に他教科とつながる「数学のまど」というコラムが掲載されている。(1年P16, 28等)</p> <p>イ 章末に他教科と関連した「活用の問題」が入っている。(2年P192等)</p> <p>ウ 目次(1年P2, 3)で、小学校との連携・中1との繋がりが示してある。また、次の段階の学習につなげる内容(階段マーク)も示されている。(3年P86等)</p>

数 学	数 学	番号 4	略称 大日本図書	書名 中学数学
-----	-----	------	----------	---------

項 目		特 徴
学 習 方 法 の 工 夫 に つ い て	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	ア 全体的に学習活動形式の表現が多く、数学的活動を通してめあてが持ちやすく基礎的・基本的な概念が理解できるようになっている。 イ 系統性を理解するために「思い出そう」で既習事項を振り返ることができ、多様な支援が見られる。(2年P10等) ウ 「練習」をはじめ章末や巻末には様々なパターンの問題ページがあり、繰り返し学習できるようになっている。
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	ア 他教科の内容に関連する題材が用いられ、視野を広げて学習への興味・関心が持てるようになっている。 イ 研究の方法や書籍の紹介が掲載され、読書への関心や数学を活用する意欲が高まるようになっている。(1年P93, 94, 264等) ウ キャラクターのつぶやきが、その箇所の確認事項となっている。(1年P116, P250)
内 容 の 構 成 ・ 配 列 に つ い て	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	ア 二次方程式の解き方では、「因数分解」→「平方根」→「解の公式」の順になっている。(3年P80～) イ 比例反比例では、関数の定義が「量の変化」という節で扱われている。(1年P122～) ウ 平面図形では、「円」→「移動」→「作図」の順になっている。(1年P163～) エ おうぎ形の定義・計量の内容がすべて「空間図形」の中で扱われている。(1年P199～) オ 「縮図の利用」は「相似な図形」の単元の最後に扱われている。(3年P164～) カ 連立方程式の計算では、「代入法」→「加減法」の順になっている。(2年P42～)
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	ア 正負の数の乗法では、かける数を1ずつ小さくするときの積の変化の考え方から説明されている。(1年P34～) イ 作図では、「垂直二等分線」は2つの点から等距離にある点の集合、「角の二等分線」は2直線から等距離にある点の集合であるという概念を用いて説明されている。(1年P178～) ウ 連立方程式の利用では、割合の内容で「食塩水濃度」が扱われている。(2年P58～) エ 相似な図形では、「三角形の角の二等分線と比」が定理として、位置づけられている。(3年P150～) オ おうぎ形の面積を、半径と弧の長さから求める公式が定理として位置づけられている。(1年P222～)
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	ア 「一次関数と図形」の内容では、三角形や四角形の边上を動く点の様子が具体的に分けて提示されている。(2年P96, 97) イ 立方体の切断面が色で示されている。(1年P235) ウ 関数の利用で、各問題が1問1ページで、図・グラフ・表の一体化が行われている。(3年P120～P125)
そ の 他	⑥今日的な教育課題との関わり等	ア 全学年の「章の扉」がすべて写真で紹介されている。また、全学年の章末に「社会にリンク」と題して、日常生活と数学が関連づけられている。(2年P102等) イ 目次で小学校との関連が提示されている。(1年P2, 3) ウ 練習問題や章末問題の行間が広く、書き込みや作図の空間が広く取られている。(1年P175)

数 学	数 学	番号11	略称 学校図書	書名 中学数学
-----	-----	------	---------	---------

項 目		特 徴
学 習 方 法 の 工 夫 に つ い て	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	ア 例題で適切な箇所に模範解答がノート形式で示されている。さらにはノートに書くときの留意点や、よりよい書き方等も示されている。(1年P32等) イ 「例題」のあとに基本的な類似問題を「問」として設定し、知識や技能の習得が図られている。 ウ 「確かめよう」で基礎・基本の理解が確認できる。また、復習ができるための本文参照ページ、参照箇所が記されている。
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	ア 「まとめの問題」では、問題の性質によって基本・応用・活用に分かれ、習熟度に応じて取り組めるようになっている。さらに、「活用」では身のまわりの場面で数学を活用する課題が設定してある。(1年P157～159) イ 「深めよう」では、学んだ知識をさらに深め、広げることができる課題設定になっている。(1年P59等) ウ キャラクターのつぶやきが、その箇所の確認事項となっている。
内 容 の 構 成 ・ 配 列 に つ い て	③単元構成の工夫 (単元の設定・配列の相違等)	ア 二次方程式の解き方では、「因数分解」→「平方根」→「解の公式」の順になっている。(3年P77～) イ 比例・反比例では、「関数」という節が設定されている。 ウ 平面図形では、「円・おうぎ形」→「作図」→「移動」の順になっている。(1年P164～) エ おうぎ形の計量が「空間図形」の中で扱われている。(1年P217～) オ 三角形の相似条件の後に「縮図の利用」の内容が扱われている。(3年P146～)
	④各学年の学習内容の構成の工夫 (学び方や考え方の展開の相違等)	ア 「文字の式」ではなく「方程式」の単元の中で、「不等式」の内容が扱われている。(1年P94～) イ 作図において、「垂直二等分線」ではひし形を、「角の二等分線」や「垂線」はたこ形の性質を利用して説明されている。(1年P174～) ウ 相似な図形では、「三角形の比の定理の逆」が具体的な数値計算から説明されている。(3年P155～) エ 比例・反比例の利用では、日常の生活での反比例の事象の方が多く扱われている。(1年P149～) オ 連立方程式の利用では、割合の内容で「食塩水濃度」が扱われている。(2年P59～)
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	ア 「一次関数の利用」では、燃焼による水温の変化の問題を取り上げ、自然現象を科学的に理解し、処理する力を身につけさせるような構成になっている。(2年P92, 93) イ 「いろいろな作図」では、問題がすべて右ページに配置されていて、実際に書き込めるスペースが確保してある。(1年P175～183) ウ 「いろいろな関数」では、グラフが階段状のものだけではなく次の段階での学習を見通して三角関数に相当するグラフの形も扱っている。(3年P122) エ 比例と反比例の利用で、ランドルト環が実物大の綴じ込み付録になっている。(1年P150)
そ の 他	⑥今日的な教育課題との関わり等	ア 随所にある「クローズアップ」の中で、記号の由来等、他の分野と関連付けたコラムが掲載されている。(1年P49等)

数 学	数 学	番号17	略称 教育出版	書名 中学数学
-----	-----	------	---------	---------

項 目		特 徴
学 習 方 法 の 工 夫 に つ い て	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	ア 各章の入口で、準備として問題形式で既習事項が確認できる「学習する前に」を設けている。(1年P10等) また、章末では学習した基礎・基本を穴埋め式で確認できる「学習のまとめ」が設けられている。(1年P53等) イ 既習事項で定着しづらい内容が「もどって確認」で取り上げてある。(1年P24等) また誤答が多く見られる所は誤答例を示し、間違いの理由を考えさせる問題が設定してある。(1年P45等)
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	ア 「問」や「みんなで数学」の中で、言語活動として捉える問題に「伝えよう」、「話し合おう」のラベルがつき、説明や話し合いができるようになっている。 イ 「問」では小さな活用問題を積み上げていき、活用する力が徐々に身に付いていくようになっている。 ウ 領域ごとの終わりに練習問題があり、確認や復習等継続した学習ができるように設定してある。
内 容 の 構 成 ・ 配 列 に つ い て	③単元構成の工夫 (単元の設定・配列の相違等)	ア 二次方程式の解き方では、「因数分解」→「平方根」→「解の公式」の順になっている。(3年P77～) イ 比例・反比例では、関数の定義が「比例」という節で扱われている。(1年P130) ウ 平面図形では、「円・おうぎ形」→「作図」→「移動」の順になっている。(1年P170～) エ 「縮図の利用」は「相似な図形」の単元の最後に扱われている。(3年P165～) オ 球の表面積と体積が単独の節として設けられず、「立体の体積」と「立体の表面積」の節の中に、それぞれ球の場合として取り上げられている。(1年P224～)
	④各学年の学習内容の構成の工夫 (学び方や考え方の展開の相違等)	ア 作図において、「垂直二等分線」ではひし形、「角の二等分線」「垂線」ではたこ形の性質を利用し、説明されている。(1年P174～) ※P176「数学メモ」にたこ形の説明有り イ 相似な図形では、「三角形の角の二等分線と比」が定理として、位置づけられている。(3年P150～)
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	ア 比例・反比例の利用や一次関数の移動した時間と道のりの例題では、事象がグラフにどう現れるかを扱った問題が取り上げられている。(2年P94等) イ 角錐の体積が角柱の体積の1/3になることを示す模型が巻末の綴じ込みにあり、操作活動ができるようになっている。(1年P309) ウ 連立方程式の活用では、割合の問題が複数扱われている。(2年P54～57)
そ の 他	⑥今日的な教育課題との関わり等	ア 「数学ミニ事典」というコラムが掲載されている。(1年P32等) イ 評価の観点マークが章末問題に示されている。(2年P138, 139等) ウ 「大切にしたい考え方」が掲示されており、小学校から培ってきた算数の考え方が継続・発展できるようになっている。(3年P37→P238)

数 学	数 学	番号6 1	略称 啓林館	書名 中学数学
-----	-----	-------	--------	---------

項 目		特 徴
学 習 方 法 の 工 夫 に つ い て	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 「ひろげよう」では、既習の内容をもとに新しい学習内容へとスムーズに展開できるようになっている。(1年P14等)</p> <p>「ふりかえり」では、既習事項に関連する問題を取り上げ、理解が深められるようになっている。(1年P23等)</p> <p>「学びをつなげよう」(別冊)では、つまづきが解消できるとともに復習や学びなおしができる設定になっている。</p> <p>イ 「問」や「基本のたしかめ」では基礎基本の定着のために該当ページに戻って復習できるようになっている。(1年P50等)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 「力をつけよう」の「くり返し練習」では、繰り返すことにより習得できるような問題設定になっている。また、進度に合わせて追加問題が用意されており、習熟度に応じた設定になっている。(1年P223～P231)</p> <p>イ 「まとめの問題」では、習熟度や応用力を身につけるための問題が設定してあり、学習の総仕上げができる。(1年P232～)</p>
内 容 の 構 成 ・ 配 列 に つ い て	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 二次方程式の解き方では、「平方根」→「解の公式」→「因数分解」の順になっている。(3年P67～)</p> <p>イ 比例反比例では、「関数」という節が設定されている。(1年P106～)</p> <p>ウ 平面図形では、「移動」→「作図」→「円・おうぎ形」の順になっている。(1年P143～)</p> <p>エ 「縮図の利用」は「相似な図形」の単元の最後に扱われている。(3年P147～)</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 正負の数の乗法では、かける数を1ずつ小さくするときの積の変化の考え方から説明している。(1年P34～)</p> <p>イ 正負の数の減法では、数直線を使わずに言葉の意味から加法に変換されている。(1年P28～)</p> <p>ウ 作図では、「垂直二等分線」ではひし形、「角の二等分線」「垂線」ではひし形・たこ形の性質を利用し、説明されている。(1年P150～)</p> <p>エ 比例反比例の利用では、グラフから読み取る問題が扱われず、立式問題が中心となっている。(1年P129)</p> <p>オ 平行四辺形では、対辺・対角ではなく、「向かい合う」という表現がされている。(2年P132～)</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 図形の移動では、移動の概念がページの右上に写真で提示されている。(1年P144～146)</p> <p>イ おうぎ形の中心角を求める例題に別解も示されている。(1年P162)</p> <p>ウ 確率では、確率の求め方の最初に順列・組み合わせが扱われている。(2年P157～)</p>
そ の 他	⑥今日的な教育課題との関わり等	<p>ア 「数学展望台」「千思万考」というコラムや発展的問題が掲載されている。(1年P53, 134等)</p> <p>イ 別冊「MathNaviブック」がついており、学びやすくなっている。</p>

数 学	数 学	番号104	略称 数研出版	書名 中学数学
-----	-----	-------	---------	---------

項 目		特 徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	ア 「問」は基本的な問題を中心に構成されており、確実に定着できるような課題設定になっている。
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	ア 学習のきっかけとなる「Q」、論理や作業を通して考える「Q」「考えよう」、「やってみよう」等多くの場面で数学的活動を見通した設定になっている。 イ 「小問」では難易度が上がる問題に三葉マークが付いており、意欲的に取り組める設定になっている。(1年P57等) ウ キャラクターのコメント、「NOTE」等で自主的に学習する際の支援の方法が具体的に示されている。(1年P56等)
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	ア 二次方程式の解き方では、「因数分解」→「平方根」→「解の公式」の順になっている。(3年P76～) イ 比例・反比例では、関数の定義が「比例」という節で扱われている。(1年P112) ウ 平面図形では、「移動」→「作図」→「円・おうぎ形」の順になっている。(1年P145～) エ 三角形の相似条件の後に「縮図の利用」の内容が扱われている。(3年P134～) オ 文字式では、「文字式の利用」という節はなく、「いろいろな数量と文字式」の節の中に規則性の問題で扱われている。(1年P62～)
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	ア 方程式では、「比例式」は活用の場面で扱われずに、計算の技能のみの扱いになっている。(1年P96～) イ 作図では、「垂直二等分線」ではひし形、「角の二等分線」「垂線」ではたこ形の性質を利用し、説明されている。(1年P151～) ウ $y = ax^2$ の関数では、放物線と直線の交点の問題が例題として扱われている。(3年P116～) エ おうぎ形の面積を、半径と弧の長さから求める公式が定理として位置づけられている。(1年P164～)
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	ア 「やってみよう」の中には操作活動が取り入れられているものもある。(2年P127等) イ 確率に相対度数という言葉が使われず、割合の概念として導入されている。(2年P162～)
その他	⑥今日的な教育課題との関わり等	ア 学習前の「出発前のクイックチャージ」があり、前年度の振り返りができるようになっている。(1年P4～11) イ 高校数学につながるような発展問題が入っている。(3年P121)

数 学	数 学	番号116	略称 日本文教出版	書名 中学数学
-----	-----	-------	-----------	---------

項 目		特 徴	
学 習 方 法 の 工 夫 に つ い て	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	ア 「例」ごとに見出しが付き、学習内容が把握できるようになっている。また、「章の扉」では、身近な事象を数学的に捉え、数学的活動を促すような設定になっている。 イ 既習事項を振り返ることが有効な場面では、既習事項を示したり参考ページを示したりする「ふりかえり」が設けられている。	
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	ア 「くり返し練習」等のページに家庭学習を促すマークがあり、自主学習ができるように設定されている。（1年P52等） イ 「くり返し練習」では問題量が豊富で学習内容の復習ができる。 ウ 「問」を早く終わった生徒のための追加問題として、「チャレンジ」が設けられている。また章末には個に応じた学習のために難易度ごとに問題が設定されている。	
内 容 の 構 成 ・ 配 列 に つ い て	③単元構成の工夫（単元の設定・配列の相違等）	ア 二次方程式の解き方では、「因数分解」→「平方根」→「解の公式」の順になっている。（3年P76～） イ 比例反比例では、「関数」という節が設定されている。（1年P122～） ウ 平面図形では、「円・おうぎ形」→「移動」→「作図」の順になっている。（1年P168～） エ おうぎ形の計量が「空間図形」の中に扱われている。（1年P209～） オ 「縮図の利用」は「相似な図形」の単元の最後に扱われている。（3年P139～）	
	④各学年の学習内容の構成の工夫（学び方や考え方の展開の相違等）	ア 作図では、「垂直二等分線」ではひし形、「角の二等分線」「垂線」ではたこ形の性質を利用し、説明されている。（1年P178～） イ 一次関数の利用では、「みなして考えること」「表、式、グラフの活用」「身近な数量の関係のグラフ」「身のまわりの問題」と細かく系統立てて設定されている。（2年P84～） ウ $y = ax^2$ の関数では、放物線と直線の交点の問題が例題として扱われている。（3年P115～） エ おうぎ形の面積を、半径と弧の長さから求める公式が定理として位置づけられている。（1年P211～）	
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	ア 正多面体の巻末付録に面の番号がつけられている。（1年） イ コンピュータの活用ページがあり、情報マークが表示されている。（1年P237, 3年P213）	
そ の 他	⑥今日的な教育課題との関わり等	ア 章末に「説明できるかな？」（3年P43, 69）「生活への利用」（3年P202）等日常的な問題が掲載されている。 イ 評価の観点マークが章末問題に示されている。 ウ ステップアップと解説がまとめてある。（3年P248～263） エ 新しい単元の前に復習ができるよう、“学ぶ前に”の問題が掲載されている。（1年P57）	

理科

理 科	理 科	番号 2	略称 東京書籍	書名 中学理科
-----	-----	------	---------	---------

項 目		特 徴
学 習 方 法 の 工 夫 に つ い て	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 章のはじめや本文横の「これまでに学んだこと」で小学校からの既習事項を確認できる。（1年P100, 108等）</p> <p>イ 本文横の「○○（教科名）で学ぶこと、学んだこと」で他教科との関連を示している。（1年P176, 180等）</p> <p>ウ 「例題」があり、計算の方法が詳しく記されている。（1年P107等）</p> <p>エ 観察・実験におけるレポートの書き方が1年の最初の単元で示されている。また、結果の見方、考察のポイント等が明確に示されている。（1年P22, 23）</p> <p>オ 単元末の「学習内容の整理」で基本語句がまとめられ、該当ページも記されている。（1年P62, 63）</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 観察・実験の過程がステップで区切られている。（1年P45等）</p> <p>イ 各単元の終わりに「科学の本だな」があり、単元に関連した書籍が紹介されている。（1年P67等）</p> <p>ウ 章の最初と最後に「before&after」が設けられており、生徒が自己の考えの変容を評価できるようになっている。（1年P51, 59）</p> <p>エ 巻頭に「巻頭・巻末資料」や読み物の内容が掲載されている。（P2）</p>
内 容 の 構 成 ・ 配 列 に つ い て	③単元構成の工夫 (単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 1分野、2分野交互の構成となっており、内容の関連性や科学概念の形成に配慮し、最初から順に学習するようになっている。</p> <p>イ 単元ごとの特集で、日本の科学・技術を紹介している。（1年P60等）</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫 (学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 観察・実験を扱う学習では、まず観察・実験を行い、基礎知識を扱ってから内容をまとめる流れになっている。（1年P45～47等）</p> <p>イ 「天気とその変化」では、基本的な気象要素を学習させ、その要素と関連付けながらの構成になっている。</p> <p>ウ 「地球と宇宙」の構成が「太陽系を構成しているそれぞれの星の特徴や動き」を学習した後で「地球から見た星の動き（見かけの動き）」の学習をすることとなっている。</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 2年「天気とその変化」では3Dペーパークラフトを活用し立体的に観察できるようになっている。（2年P180）</p> <p>イ 単元の終わりに自由研究につなげる発展的課題が示されている。（1年P67等）</p>
そ の 他	⑥今日的な教育課題との関わり等	<p>ア 「学びを活かして考えよう」では、言語活動のきっかけにつながる話合いの視点が示され、科学的な思考力・表現力の育成をねらっている。（1年P172, 226等）</p> <p>イ 小単元末にある「学んだことをつなげよう」では、書く活動や説明する活動が取り入れられ、知識習得だけで終わらない工夫がされている。（1年P167等）</p> <p>ウ 「持続可能な社会をつくるために」という内容が1つの小単元として扱われている。（3年P284）</p> <p>エ 不透明度の高い用紙を使用して写真やモデル図を多く使用する等、視覚的効果への工夫が見られる。1年の教科書は、他学年より文字のサイズが大きい。</p> <p>オ 「科学でGO!」のトピックスでキャリア教育や防災教育、環境教育に関連する読み物を提示している。（1年P167等）</p> <p>カ どの学年にも、学習内容に関連するペーパークラフトが付いている。</p>

理 科	理 科	番号 4	略称 大日本図書	書名 中学理科
-----	-----	------	----------	---------

項 目		特 徴
学 習 方 法 の 工 夫 に つ い て	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 「これまでに学習したこと」と「これから学習すること」が単元の初めにまとめて記述されている。（1年P22, 23）</p> <p>イ 本文横の「思い出そう」で、既習事項が確認できる。（1年P41, 140, 243等）</p> <p>ウ 本文横に「○○（教科）では」マークで、他教科との関連や既習事項を確認できる。（1年P176等）</p> <p>エ 顕微鏡の扱い方で、倍率と視野の関係を写真付きで説明している。また、双眼実体顕微鏡の扱い方では、白黒ステージの違いを写真付きで説明している。（1年P18, 19）</p> <p>オ 観察と実験とは別に「実習」が設定されている。（1年P25等）</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 「やってみよう」「もっと」等、発展的な実験が紹介されており、自然科学に対する興味関心を高める工夫がある。（1年P30, 107等）</p> <p>イ 「やってみよう（ものづくり）」が身近な材料でできるよう設定されている。（1年P165, 2年P208, 3年P167等）</p> <p>ウ 観察・記録の仕方デジタルカメラの撮影例が示されている。（1年P13）</p> <p>エ 単元末に「読解力問題」、「サイエンスランド」が設定されており、読解力や思考力の育成を意識している。（1年P64等）</p>
内 容 の 構 成 ・ 配 列 に つ い て	③単元構成の工夫 (単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 3学年を見通して観察・実験のしやすい時期を考慮したり、理科室が異学年で重ならないような単元配列にしたりするとともに、1分野、2分野交互の配列になっている。</p> <p>イ 1年時に物理分野よりも化学分野を先に履修することで、早い段階で実験器具や理科室の利用に関する基礎的な技能が身につくように配慮されている。</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫 (学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 観察・実験を行う前に、基礎知識の説明があり、実験の後には、「実験の結果」「結果からわかること」が明確に記述されている。（1年P27, 28等）</p> <p>イ 動脈から毛細血管まで、その太さの比較を図示して、見た目のイメージをとらえやすくしてある。（2年P98）</p> <p>ウ 2年の地学が気象観測から始まっている。</p> <p>エ 「地球と宇宙」では、「地球から見た星の動き（見かけの動き）」を学習した後で「太陽系を構成しているそれぞれの星の特徴や動き」の学習をする構成となっている。</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 終章「学んだことを活かそう」では、単元で学んだことを活用して発展的な課題や生活場面に近い課題に取り組む構成になっている。（1年P58, 126等）</p> <p>イ 「発展」では、さらに学習を深められるように、「生物の進化」や「熱エネルギーの正体」等専門的な記述が盛り込まれている。（2年P148, 3年P63等）</p> <p>ウ 大地の分野で平面的にしか観察できなかったものを3D写真にする工夫がある。（1年P209, 241）</p>
そ の 他	⑥今日的な教育課題との関わり等	<p>ア 「トピック」「くらしの中の理科」「プロフェッショナル」では、学習した事柄の発展的な内容やくらしとの結びつきが紹介されている。（1年P108, 2年P280, 1年P110等）</p> <p>イ 「動物園や水族館を見学してみよう」では、全国の主な施設を紹介している。（2年P306）</p> <p>ウ ジオパークについて記述されている。（1年P284）</p>

理 科	理 科	番号11	略称 学校図書	書名 中学理科
-----	-----	------	---------	---------

項 目		特 徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 単元の冒頭に、これまで学んだことのチェックページがあり、Q&A方式で既習事項を確認できる。(1年P5, 8等)</p> <p>イ 本文横の「思い出してみよう」で既習事項の確認ができる。(1年P173等)</p> <p>ウ 顕微鏡、双眼実体顕微鏡の使い方等観察器具の使い方について注意が操作ごとに記載されている。(1年P152)</p> <p>エ 「観察・実験の進め方」がどの学年でも巻頭に示されている。</p> <p>オ 実験の次ページに「結果」「考察とまとめ」の項目がある。(1年P175, 176等)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア レポートの書き方について、具体的に例を示し説明している。(1年P145)</p> <p>イ 単元末問題の続きに「活用しよう」として学習内容を活用する問題を設定している。(1年P74, 136等)</p> <p>ウ 「チャレンジ」で実験・観察テーマが示されており、学習してきたことを活用して自ら実験・観察できるガイドがある。(1年P19, 55, 2年P125等)</p> <p>エ 学習内容の見出しが「どのような方法で物質を区別できるか」等の学習課題になっている。(1年P9等)</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫 (単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 最初からページ順に学ぶ構成ではなく、前半が1分野、後半を2分野とし、分野ごとの単元構成になっている。</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫 (学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 「化学変化と原子・分子」の構成が「原子」の学習から始まっている。(2年P8)</p> <p>イ 「化学変化とイオン」の構成が「酸・アルカリ」の後に「電池」を学習する構成となっている。</p> <p>ウ 「地球と宇宙」では、「太陽系を構成しているそれぞれの星の特徴や動き」を学習した後で「地球から見た星の動き(見かけの動き)」を学習する構成となっている。</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 「学習のまとめ」「単元のまとめ」「活用しよう」等で、単元の復習と学習内容を活用する問題を行うことができる。(1年P132等)</p> <p>イ 「継続観察」が目次に掲載されている。(1年P3等)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わり等	<p>ア 言語活動の充実に関わる「話し合ってみよう」において、他者に説明する場面が設定されている。(1年P194, 2年P53等)</p> <p>イ 各単元末の「科学を仕事に活かす」でキャリア教育に関連させている。(1年P68, 196等)</p> <p>ウ 「科学の窓」で日常生活とのつながりを示している。(1年P19, 2年P43等)</p> <p>エ 「〇〇とのつながり」で数学等の教科との関連を示している。(3年P39等)</p>

理 科	理 科	番号17	略称 教育出版	書名 中学理科
-----	-----	------	---------	---------

項 目		特 徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 単元ごとに、小学校の既習事項とこれから学ぶことが、単元の流れとともに示してある。(1年P8, P126等)</p> <p>イ 本文横の「思い出そう」マークで既習事項を確認できる。(1年P44, 54等)</p> <p>ウ 顕微鏡の使い方等の実験では、注意すべき事項を赤字で記載している。(1年P140, 141)</p> <p>エ 写真を使って事物を紹介するページがあり、植物の細胞分裂等はイラストを活用して比較している。(1年P130~133, 3年P127)</p> <p>オ 単元のまとめ部分で、「要点と重要用語の整理」と「基礎・基本問題」を設定している。(1年P62~65等)</p> <p>カ 重要語句は文字を朱色にしたり太文字を使用したりし、ふりがなをつけている。(各学年全般)</p> <p>キ 教科書に実験結果を書き入れる欄が設けられている。(1年P31等)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 実験の準備について、自己点検できる欄がある。(1年P31等)</p> <p>イ 各学年とも、巻末資料に「自由研究」についての扱いがある。(1年P253等)</p> <p>ウ 「活用しよう」では、発展的な実験や問題が記載されており、個に応じて興味・関心を引き出す工夫がある。(1年P17等)</p> <p>エ 1年で「理科学習の進め方」が示されている。(P2~7)</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫 (単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 前半に1分野、後半に2分野の学習内容を配置し、分野ごとの単元構成となっている。</p> <p>イ 単元末には「活用・応用問題」、教科書の最後には「学年末総合問題」があり、活用・応用力を確かめることができる構成になっている。(1年P66, 67, 250等)</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫 (学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 本文の記載が「課題」→「実験(方法・結果・考察)」→「実験からわかること」→「考察」の順になっている。(1年P27~30等)</p> <p>イ 「地球と宇宙」で、「地球から見た星の動き(見かけの動き)」を学習した後で「太陽系を構成しているそれぞれの星の特徴や動き」の学習をする構成となっている。</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 「考えよう」や「話し合おう」を設定しており、話し合いを活用して、考えさせながら学習内容の理解を深めさせる構成となっている。</p> <p>イ 切り取って使用する付録が巻末に付いている。(全学年)</p> <p>ウ 元素記号の由来が詳しく記述されている。(2年P18)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わり等	<p>ア 「ハローサイエンス」で生活・環境等の科学の話題や、発展的な内容を紹介している。(1年P76, 2年P109等)</p> <p>イ 随所に「わたしのレポート」として例示をし、表現力の向上を図っている。(1年P60, 2年P166等)</p> <p>ウ 随所に「思い出そう」として、既習内容の関連を記載するとともに、系統性を重視し、自分で振り返って学習できる構成となっている。(1年P21)</p>

理 科	理 科	番号61	略称 啓林館	書名 中学理科
-----	-----	------	--------	---------

項 目		特 徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 章の初めに一問一答での「ふり返り」があり、既習事項（小学校〇年、中学校〇年）との関連付けができる。（1年P16等）</p> <p>イ 本文中にも「ふり返り」マークがあり、既習事項を振り返ることができる。（1年P21, 29等）</p> <p>ウ 別冊「マイノート」がカラーになっており、カラーユニバーサルフィルター（青色シート）で用語の確認ができるようになっている。（1年マイノートP24等）</p> <p>エ 「学習のまとめ」でカラーユニバーサルフィルター（青色シート）を使って、学習事項の確認ができる。（1年P54, 55等）</p> <p>オ 「マイノート」のサイエンスアプローチで観察・実験の前後に学習内容を整理できる。</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 「部活ラボ」等の発展的な内容は、写真や図を多く使い、興味・関心を引くようになっている。（2年P39等）</p> <p>イ 「巻末のサイエンストラベラー」に、それぞれの地域の自然が写真で示してあり、自分の住んでいる地域の自然や他地域との違い等が理解できる構成になっている。</p> <p>ウ 巻末のサイエンス資料に「理科でよく使う算数・数学」が掲載されている。（1年P252, 253等）</p> <p>エ 巻末のサイエンス資料に「理科における話し合いと発表」が掲載されている。（1年P256, 257等）</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫（単元の設定・配列の相違等）	<p>ア 最初からページ順で学ぶ構成ではなく、前半を生命・地球編、後半を物質・エネルギー編の分野ごとの単元構成になっている。</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫（学び方や考え方の展開の相違等）	<p>ア 探究的な学び方を身につけるために、巻末の「きみも科学者」には探究活動の具体例が紹介されている。（1年P230～235等）</p> <p>イ 実際に観察が難しい内容については、図や写真を多く掲載している。（2年P50, 51等）</p> <p>ウ 「地球と宇宙」では、「太陽系を構成しているそれぞれの星の特徴や動き」を学習した後で「地球から見た星の動き（見かけの動き）」の学習をする構成となっている。</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 別冊「マイノート」の「サイエンスアプローチ」で観察・実験の準備や振り返りを行うことができる。</p> <p>イ 別冊「マイノート」の「ステップアップ」では、語句を埋めるだけでなく、説明文を記入したり図を描いたりする等、さまざまな方法で表現力を育む構成になっている。</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わり等	<p>ア 鳥取砂丘の掲載がある。（2年P260）</p> <p>イ 「日本の技」「伝統文化」「部活ラボ」「科学偉人伝」「先人の知恵」等が、理科への興味関心を引く内容になっている。（1年P155, 3年P30等）</p> <p>ウ 「発展」に「化学基礎へ」「生物基礎へ」マークがあり、高校の内容とのつながりを示している。（3年P118, 216等）</p> <p>エ 「〇〇（教科名）と関連」マークで、他教科と関連する内容を記している。（1年P150, 3年P232等）</p> <p>オ 図や写真が教科書の両端と下部に集められている。</p> <p>カ 「はたらく人に聞いてみよう！」でキャリア教育と関連させている。（1年P171, 175等）</p>

音樂

音 楽	音 楽	番号 1 7	略称 教育出版	書名 中学音楽
-----	-----	--------	---------	---------

項 目		特 徴	
学 習 方 法 の 工 夫 に つ い て	①基礎・基本の 確実な定着を 図るための工夫	ア	学習指導要領の[共通事項]イの用語や記号が、各教材において新しく楽譜に記載される場合、右上に表記してある。
		イ	それぞれの教材ごとに、その指導事項から導いた「活動のポイント」が具体的に2点焦点化し、示されている。
		ウ	器楽において、楽器の姿勢とかまえ方や奏法の写真や説明が豊富に掲載されている。 (器楽P5, 20, 22, 32, 39, 40, 50, 56～59, 62等)
	②自主的・自発的 な学習を促すための工夫 や、個に応じた学習の工夫	ア	配色やレイアウト、表現方法、文字の配置など生徒に分かりやすいよう配慮がしてある。
		イ	創作では、課題が具体的であり、段階を踏まえた学習内容が提示されており、ワークシートに記載することにより、学習のめあてが明確に理解できる。 (1 P52, 53, 2・3上 P48, 49, 2・3下 P40, 41)
		ウ	巻末にオーケストラの楽器について、写真で具体的に掲載しており、交響曲での教材提示に役立てることができる。(1 口絵③④)
		エ	器楽のギターのコードポジションや奏法が写真と解説で提示してある。(器楽 P20～26)
内 容 の 構 成 ・ 配 列 に つ い て	③単元構成の工夫 (単元の設定・ 配列の相違 等)	ア	歌唱教材において、自然や四季が感じ取れるよう歌詞の表示や背景などの構成を工夫している。 (1 P16, 17)
		イ	鑑賞教材では、右ページに時代の表記がある。また、他の芸術分野と関連づけた構成となっている。 (2・3下 P54～59)
	④各学年の学習 内容の構成の 工夫 (学び方や考え 方の展開の相 違等)	ア	「Let's Try!」の指揮法では、1年生で扱った基礎的内容を3年で発展応用できる内容としている。 (1 P22, 2・3上 P20, 2・3下 P16)
		イ	「音のスケッチ」の創作では、1年生で身に付けたリズムや音階の知識を、2・3年で楽曲全体の構成を意識しながら創作できる内容となっている。 (1 P52, 53, 2・3上 P48, 49 2・3下P40, 41, 46, 47)
	⑤特徴的な単元 における課題 の構成の工夫	ア	鑑賞教材において、楽曲の特徴や聴き取った内容を記録し、音楽の価値や意味を考えるために「伝えてみよう!」を設定している。また、聴き取るポイントが提示してあり、聴き比べる活動につなげる工夫がある。 (1 P33 2・3上 P31 2・3下 P26)
		イ	鑑賞で取り扱った楽曲を歌唱することにより、主旋律や各声部の役割が理解できる内容となっている。 (1 P38, 39)
そ の 他	⑥今日的な教育 課題との関わり 等	ア	私たちのくらしと音楽では、「音楽著作権とインターネットについて」「アウトリーチ、教育活動、音楽療法」が取り扱われている。 (2・3下 P50～51)
		イ	巻頭で、芸術家としての思いや願いが記載されており、「人間としての生き方にふれる」ことができる。

音 楽	音 楽	番号 2 7	略称 教育芸術社	書名 中学音楽
-----	-----	--------	----------	---------

項 目		特 徴		
学 習 方 法 の 工 夫 に つ い て	①基礎・基本の 確実な定着を 図るための工夫	ア	各教材に「学習の目標」と「目標に迫るための学習活動」が明確に示されている。	
		イ	「B I N G O G A M E」「R H Y T H M G A M E」「M y V o i c e」などのコーナーで、発声法や楽譜の表記など、基礎・基本を繰り返し定着できるよう工夫されている。 (1 P6～9, 2・3上 P6, 7, 2・3下 P8, 9, 15)	
②自主的・自発 的な学習を促 すための工夫 や、個に応じ た学習の工夫		ア	生徒一人一人の創造性を育成するため、創作において、学習目標を明確に示し、イラストや図で表すなど、生徒が視覚的に捉えることのできる工夫がなされている。 (1 P30, 31, 2・3上 P28, 29, 2・3下 P26～29)	
		イ	鑑賞教材において、曲の特徴や感じ取った内容を記入する欄が設けられており、生徒の表現力を引き出す工夫がある。 (1 P38, 2・3上 P51, 2・3下 P31)	
		ウ	巻末に日本の伝統音楽の編成について、写真で具体的に掲載しており、雅楽、能・狂言、歌舞伎、文楽等の教材提示に役立てることができる。 (器楽 口絵8)	
内 容 の 構 成 ・ 配 列 に つ い て	③単元構成の工夫 (単元の設定・ 配列の相違 等)	ア	「ここが分かればG r a d e u p !」というコラムが設けられ、[共通事項]と関連付けられている。 (1 P12, 2・3上 P10)	
		イ	生徒の発達段階を考慮した目標の設定となっており、具体的な内容の提示となっている。	
	④各学年の学習 内容の構成の 工夫 (学び方や考え 方の展開の相 違等)	ア	学習指導要領に示された音楽科における学習内容と各教材との関連を「学習MAP」に明確に示している。 (1 P2, 3, 2・3上 P2, 3, 2・3下 P2, 3)	
	イ	創作活動において、各学年の発達段階に応じた学習内容や学習の手順が具体的に示されている。 (1 P48, 49, 2・3上 P28, 29, 2・3下 P26～29)		
⑤特徴的な単元 における課題 の構成の工夫	ア	日本の伝統音楽の教材では、学習指導要領に示された[共通事項]の内容が具体的に説明されている。 (1 P40～43)		
	イ	我が国の伝統的な歌唱において、具体的な歌唱方法が、絵譜を用いて表記してある。 (1 P46, 2・3上 P44, 2・3下 P42)		
そ の 他	⑥今日的な教育 課題との関わり 等	ア	「特集 ルールを守って音楽を楽しもう！」では、著作権法について記載されている。 (2・3下 P50, 51)	
		イ	日本の音楽の教材について、絵、イラストの色彩、文字配列などが工夫されている。	
		ウ	音楽づくりの観点から、生徒一人一人の表現力の育成をめざした創作の教材が工夫されている。	
		エ	鳥取県の民謡が記載されている。 (1 P44, 2・3上 P50)	

美術

美術	美術	番号 9	略称 開隆堂出版	書名 中学美術
----	----	------	----------	---------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 制作中の写真が多く掲載されており、工程をイメージしやすい。</p> <p>イ 「美術1」、「美術2・3」の「色彩ホームページ」で、色彩について体系的に学習できるコーナーを設けている。(1 P55～57, 2・3 P106, 107)</p> <p>ウ 「美術1」の「パレットコーナー」や「道具箱」で基本的な絵の具の使用方法がまとめられている。(P50～54)</p> <p>エ 基礎的な技法や知識に関する情報は緑の囲い枠で視覚的に表示し、分かりやすく示している。</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 作品とともに作家の「作者の言葉」を紹介し、作品に込められたこだわりや信念を制作意欲につなげる工夫がみられる。</p> <p>イ 題材ごとに振り返りの4観点を示し、どんな力がついたのかを確かめながら学習を進められるように工夫している。</p> <p>ウ 題材ごとに内容を象徴する有名作家の作品を紹介し、興味・関心を高める工夫をしている。</p> <p>エ 題材の関連情報が随所に掲載されており、知識を広げたり、深めたりする手助けになっている。</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 序盤に「絵や彫刻」、中盤に「デザインや工芸」、「鑑賞」は全体の中に随時挿入してあり、「美術1」の終盤には道具の使い方や色彩についての資料を掲載している。</p> <p>イ 「美術1」では、作品の発信方法や自分の作品のまとめ方などを紹介している。(P46, 47)</p> <p>ウ 「美術2・3」では、参考作品に日本の美術作品を多く紹介しており、巻末の「色彩ホームページ」では日本の伝統色を扱っている。(P106, 107等)</p> <p>エ 「美術1」「美術2・3」共に、教科書中央に2ページ分の「原寸ギャラリー」が構成してある。(1 P26, 27等)</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 「美術1」では絵画・デザイン・工芸分野ともにモダンテクニックや偶然を生かした技法、材料の性質を生かした作品などを扱っており楽しんで制作する題材が中心となっている。</p> <p>イ 「美術2・3」では内容が一冊にまとめられており、いくつかの題材はページ数を増やして関連作品を多数紹介し、内容の充実を図るなどの工夫が見られる。</p> <p>ウ 巻末の「色彩ホームページ」について、「美術1」は基礎的基本的事項を押さえ、「美術2・3」では、西洋の色と比較した日本の色の文化を紹介している。(1 P55～57, 2・3 P106, 107)</p> <p>エ 「美術2・3」では、高校への接続を意識させるとともに、社会との関わりを考えさせる工夫をしている。(P96～102)</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 美術の力を生かして働く先輩のコメントを紹介し、自分の将来と美術との関わりが感じられるようになっている。(2・3 P10, 11)</p> <p>イ 地域の文化財における日本の伝統を多く取り上げ、それらをもとにした題材の設定をしている。</p> <p>ウ 社会の中での美術の役割や、その発展に寄与する態度の育成を目指した内容を、「美術1」の巻頭(震災の復興)等で取り上げている。(P2～4等)</p> <p>エ 巻末の美術史では、人の表情を軸に紹介している。(2・3 P103～105)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わり等	<p>ア 鑑賞のきっかけになる問いかけがあり、言語活動を行うための手助けになっている。</p> <p>イ 「美術2・3」では、日本の伝統文化を多く取り上げている。</p> <p>ウ 防災や復興に関する内容を美術と関連づけて扱っている。(1 P2～4等)</p>

美術	美術	番号38	略称 光村図書出版	書名 中学美術
----	----	------	-----------	---------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 教科書全体に対して「学習を支える資料」の割合が多く、基礎・基本の定着を重視していることがうかがえる。</p> <p>イ 「学習を支える資料」は、制作の手順やポイントが分かりやすく説明してある。(1 P46～67, 2・3 P78～105)</p> <p>ウ 必要とされる題材には、アイデアスケッチ等の制作過程が多数掲載され、制作手順の見通しを立てる手がかりになっている。</p> <p>エ 多くの図版が紹介してあり、発想段階での押さえと基礎基本の定着の手助けとなっている。</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 「作者の言葉」やコラムを読むことで作品が作り出された背景を感じ取ることができ、美術に対する興味・関心が高まるよう工夫している。</p> <p>イ 生徒作品に添えられた「作者の言葉」から、制作について生徒自身が題材をより身近に感じ、制作意欲が高まるよう工夫している。</p> <p>ウ 作品とあわせて共感を持ちやすい詩を掲載し、制作意欲を高める工夫をしている。(1 P2, 3, 2・3 P2, 3, 40, 45, 104, 105)</p> <p>エ 題材ごとに、「学習を支える資料」の関連ページが示され、制作に必要な情報を自発的に得ることができる。</p> <p>オ 各テーマの横に達成目標が示され、終了時には自己評価ができるようになっている。また、共通事項を意識させるような問いを設置している。</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 序盤に「絵や彫刻など」、中盤に「デザインや工芸など」、終盤に「学習を支える資料」が配置され、分かりやすく機能的な配列になっている。</p> <p>イ 「美術1」「美術2・3」共に、教科書中央に4ページ分の大きな見開きが構成してある。(1 P23～26, 2・3 P41～44)</p> <p>ウ アで述べたように、巻末に学習に役立つ技法等を紹介しており、資料集的役割を果たすページを多数設けている。</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 「美術1」のオリエンテーション部分は、自分と美術、社会と美術との関わりが、それぞれわかりやすく記してある。題材は基礎をもとにしなが、楽しくユニークな作品となるものを設定している。(P5～7等)</p> <p>イ 「美術1」では、小学校とのつながりを意識した題材が設定してある。(P5～7等)</p> <p>ウ 「美術2・3」では内容が一冊にまとめられており、第1学年で学習した内容が、つながり、深まるように系統性を意識した内容が構成されている。</p> <p>エ 生徒の自画像を掲載するなどして、生徒の心に響く、共感して取り組める内容を多く取り上げている。(2・3 P26, 27等)</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 「学習を支える資料」に美術家・デザイナーの造形活動や発想・構想の方法を紹介するページを設けている。(1 P46, 47, 2・3 P78, 79等)</p> <p>イ 「問題を解決するデザイン」として、社会や身近な問題と絡めて作品例を提示し、意欲的に取り組める工夫がしてある。(2・3 P70～73等)</p> <p>ウ ICTを積極的に活用する例を取り上げている。(2・3 P80, 81)</p> <p>エ 巻末の美術史では、世界の美術史について著名な作品を載せて紹介している。(2・3 P98～100)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わり等	<p>ア 学習指導要領の【共通事項】を意識したページが設定してある。</p> <p>イ 道徳との関連箇所をマークで明示している。</p> <p>ウ 「美術1」では美術館や利用の仕方について紹介をしている。(1 P66, 67)</p>

美術	美術	番号 1 1 6	略称 日本文教出版	書名 中学美術
----	----	----------	-----------	---------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 図版が大きく、見やすく配置しており、基本として押さえた部分の分かりやすく示してある。</p> <p>イ 題材ごとのポイントをわかりやすく示してあり、見方や考え方の手助けとなっている。</p> <p>ウ 「学習に役立つ資料」は、制作の手順やポイントをわかりやすく説明している。 (1 P50～59, 2・3 上 P48～57, 2・3 下 P48～55)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 巻頭の「オリエンテーション」で、作品を作る意味や作品の背景を紹介し、美術への関心・意欲を高める工夫をしている。(1 P2～7, 2・3 上 P2～7, 2・3 下 P2～7)</p> <p>イ 多くの掲載作品に、説明文が添えてあり、主体的な学習の手助けとなるように工夫している。</p> <p>ウ 生徒作品に「作者の言葉」を紹介することで、思いや工夫を感じて、制作意欲が高まるよう工夫している。</p> <p>エ 各題材について4観点の「学びのねらい」が明確に示してある。</p> <p>オ 題材ごとに、「学習を支える資料」の関連ページが示され、制作に必要な情報を自発的に得ることができる。</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫 (単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 序盤に「絵や彫刻など」、中盤に「デザインや工芸など」、終盤に「学習を支える資料」が配置され、分かりやすく機能的な配列になっている。</p> <p>イ それぞれの題材について、絵画や彫刻、デザインや工芸等の様々な領域の作品が参考作品として紹介しており、レイアウトも工夫している。</p> <p>ウ 「美術1」「美術2・3上」「美術2・3下」共に、教科書中央に4ページ分の大きな見開きが構成してある。 (1 P24～26, 2・3 上 P26～29, 2・3 下 P26～29)</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫 (学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 「美術1」は、スケッチからはじまり、工芸・デザインともに基礎的・基本的技能の定着をねらった題材を中心に構成している。</p> <p>イ 「美術1」では、小学校とのつながりを意識した題材が設定してある。(P6～7等)</p> <p>ウ 「美術1」では「出会いと広がり」、「美術2・3上」では「学びの深まり」、「美術2・3下」では「美の探究」をテーマに、学年に応じて系統性を考えた内容を構成してある。</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 「美術2・3上下」では、「伝える」力を育成することに重点を置いた内容を取り上げている。 (2・3 上 P38～41, 2・3 下 P32, 33等)</p> <p>イ 仕事としての美術という視点から、日本文化の伝承など、キャリア教育に関わる内容も扱っている。 (2・3 下 P6, 7, 2・3 下 P48, 49)</p> <p>ウ 「問題を解決するデザイン」として、社会や身近な問題と絡めて作品例を提示し、意欲的に取り組める工夫がしてある。 (1 P32, 33, 2・3 上 P38～45, 2・3 下 P44～47等)</p> <p>エ 巻末の美術史では、世界と日本の交流を軸に紹介している。(2・3 上 P50～52)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わり等	<p>ア 環境や生活など身の回りにある美やデザインを多く紹介している。</p> <p>イ 防災や復興を含めた各種問題に関する内容を美術と関連づけて扱っている。 (1 P55, 2・3 上 P38, 2・3 下 P17等)</p> <p>ウ 道徳との関連箇所をマークで明示している。</p> <p>エ 「美術2・3下」では地域と結びついたアートイベントを紹介している。(P50～52)</p>

保健体育

保健体育	保健体育	番号 2	略称 東京書籍	書名 中学保健体育
------	------	------	---------	-----------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 「今日の学習」→「やってみよう」→本文と資料→「考えて見よう（活用）」→「生かそう」の流れが示してある。（P8, 9等）</p> <p>イ 章の最後に「確認の問題」「活用の問題」とあり、知識の定着を図れるよう工夫されている。（P30, 31等）</p> <p>ウ 章の最後の「学習のまとめ」で学習をふり返るコーナーと日常生活に生かすコーナーがあり、自己評価や活用に生かすよう工夫されている。（P32等）</p> <p>エ 巻末に「キーワードの解説」としてまとめ、重要語句の理解を促している。（P165）</p> <p>オ 横幅が広く、資料や図表が大きい。</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 「やってみよう」を考えることで、授業に自主的な参加を促す工夫がされている。</p> <p>イ 「考えてみよう」によって学習した内容が身近な問題になったり、自分に直接関係あることのように捉えたりする工夫がされている。</p> <p>ウ 「生かそう」によって具体的な日常生活への行動化、深化、発展につなげやすい工夫がされている。（P8, 9等）</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫（単元の設定・配列の相違等）	<p>ア 保健分野が体育分野の前に配列されている。</p> <p>イ その学年の学習内容が分かるように、保健分野・体育分野が学年ごとに配列されている。</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫（学び方や考え方の展開の相違等）	<p>ア 章の扉の部分や「今日の学習」、「リンクマーク」によって、他学年や小学校及び高校とのつながりにつかめるよう工夫されている。（P20, 21等）</p> <p>イ 学びのつながりが分かるように、他教科との関連が示してある。（P6等）</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 「傷害の防止」の単元で、交通事故（自転車事故）における被害者、加害者の両面について考えられるよう工夫されている。（P69）</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わり等	<p>ア 体育分野、保健分野に関わらず興味関心が高まるように、身近なスポーツ選手、著名人等の話題を多く掲載している。（口絵P1, 2, 29, 41等）</p>

保健体育	保健体育	番号 4	略称 大日本図書	書名 中学保健体育
------	------	------	----------	-----------

項 目		特 徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 「今日の学習課題」→「考えよう」→本文と資料→「学習を活かして」の流れが示してある。(P4, 5等)</p> <p>イ 動きのイメージを持てるように資料や図表が多く用いられている。(P12~15)</p> <p>ウ 基礎・基本を押さえやすいように、単元が細分化されている。(P100~)</p> <p>エ 各章の終わりに「学習のまとめ」として<重要な言葉>と<学習の要点>がまとめられている。(P82~84等各章)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 「学習を活かして」のところが実生活につながるように工夫されている。(P87等)</p> <p>イ 学習内容に関連した「トピックス」が位置づけられ、学習意欲を促す工夫がされている。(P37等)</p> <p>ウ 脚注欄に「ミニ知識」を入れてあり、学習内容を深める工夫がされている。(P36等)</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫 (単元の設定・配列の相違等)	ア 体育分野が保健分野の前に配列されている。
	④各学年の学習内容の構成の工夫 (学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 見通しをもったり、振り返ったりすることができるように、3年間の学習内容を見開き1ページに示している。(口絵7, 8)</p> <p>イ 他学年と関連する学習内容等が「リンク」により、つながりがつかめるよう工夫されている。(P63等)</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	ア 口絵や巻末資料等で、オリンピックやパラリンピック等の内容が図解や写真で多く掲載してある。また、ワールドゲームズについても掲載してある。(P36)
その他	⑥今日的な教育課題との関わり等	ア SNS等による被害について具体的に記載されている。(P93)

保健体育	保健体育	番号50	略称 大修館書店	書名 中学保健体育
------	------	------	----------	-----------

項目		特徴	
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	ア 生徒自身が学習の確認ができるよう、各章の終わりの「学習のまとめ」により、振り返りを取り入れ、自己評価できるように工夫されている。(P12等)	イ 授業のねらいとつなげることができるように、「キーワード」と本文中の重要語句がリンクしている。(各項目)
		ウ 各章の終わりの「学習のまとめ」の「学びを生かそう」で実生活へとつながるよう工夫されている。(P66等)	
内容の構成・配列について	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	ア 「コラム」という形式の読み物教材により、興味を深める工夫がされている。	イ 「チャレンジ」、「トピック」、「Q & A」、「情報資料室」等で実生活に生かせるよう工夫されている。(P55等)
		ウ 単元の発展性を持たせることができるように、各見開きページに「トライ」のコーナーが設けられている。(P43等)	
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	ア 体育分野が保健分野の前に配列されている。	
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	ア 実習の発展として、A E Dの使い方が図式化されている。(P106)	イ 心肺蘇生法についてチェックポイントが表で示され、活用しやすいよう工夫されている。(P107)
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	ア 「傷害の防止」の単元で、交通事故(自転車事故)における被害者、加害者の両面について考えられるよう工夫されている。(P89)	
その他	⑥今日的な教育課題との関わり等	ア 危険ドラッグについて、具体的に記載されている。(P134~137)	イ SNS等による被害について具体的に記載されている。(P93)

保健体育	保健体育	番号 2 2 4	略称 学研教育みらい	書名 中学保健体育
項 目		特 徴		
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	ア 「学習の目標」→「ウォームアップ(考える・調べる)」→本文と資料→「エクササイズ」→「活用しよう」と授業の流れが示してある。(P10, 11等)	イ 重要語句はゴシック体で表されており、意識しやすい工夫がされている。また、本文中に關係資料が示してある。(P12, 13等)	ウ 課題内容の理解につながるように、「ウォームアップ」で、資料等を読み取ることができるようにしている。(P46等)
	エ 自己評価や知識・理解の確認が生徒自身でできるように、内容の確認、活用の問題等が示されている。(P32, 33等)	ア 発展的な内容や興味関心を持たせるように、章末に「探究しようよ」のコーナーが設けてある。(P52等)	イ 「活用しよう」では、学習した内容が生活にどのように生かしていくか、考えたり判断したりする工夫がされている。(P89等)	ウ 生徒の興味を持たせるために、全てのページ下に、「情報サプリ」、「リンク」、「探究」、「発展」等の情報や発展課題等が掲載してある。
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫 (単元の設定・配列の相違等)	ア 保健分野が体育分野の前に配列されている。		
	④各学年の学習内容の構成の工夫 (学び方や考え方の展開の相違等)	ア 章の扉の部分に、小学校及び高校との学習の関連が示されている。	イ 心肺蘇生法についてチェックポイントが表で示され、活用しやすい工夫がされている。(P77)	ウ 「エクササイズ」で実生活に結びつけて学習できるように編集されている。(P47等)
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	ア がんやアレルギーについて詳しく扱われ、具体的に記載されている。(P99)		
その他	⑥今日的な教育課題との関わり等	ア 体育理論においてICTの活用について触れられている。(P139, 140)		

技術家庭

(技術分野)

技術家庭	技術家庭 (技術分野)	番号 2	略称 東京書籍	書名 中学技術家庭 (技術)
------	----------------	------	---------	-------------------

項 目		特 徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 基礎的・基本的な知識・技術の習得に向け、見通しや目的意識をもって取り組めるよう、学習のはじめに目標が示してある。(P20, 22, 40, 42等)</p> <p>イ 技能を確実に習得できるよう、身に付けさせたい技能を「基礎技能」としてまとめている。(P54～73等)</p> <p>ウ 学習内容の確かめや大切な用語の確認ができるよう、各編の最後に「学習のまとめ」のページが設定されている。(P90, 91等)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 問題解決能力が身に付くよう、ガイダンスにある「計画、実行、評価・改善」の流れが統一的に示されている。(P14, 15, 50, 51, 124, 125等)</p> <p>イ 章末や編末の「生活に生かそう」により、生徒の主体的な学習を促している。(P37, 83, 91等)</p> <p>ウ 生徒の興味・関心を高め、理解を深めるための「技術のとびら」が設定されている。(P24～31等)</p> <p>エ 日々の学習において、評価・活用の能力を高めることができるよう、「技術の天びん」が設定されている。(P23, 35, 95, 96等)</p> <p>オ ページ右下に各内容の特徴的なものをパラパラ写真で掲載し、興味・関心を高めている。</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫 (単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 各編とも知識—技術—評価・活用という流れで構成されている。</p> <p>イ 情報モラルについては、プラス面とマイナス面を考えさせることで、情報モラルの必要性が実感できる構成となっている。(P210～215)</p> <p>ウ 各編において、安全上特に気を付けるべき事項をまとめて示している。(P33, 63, 109等)</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫 (学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア ガイダンスでは、技術史や身の回りの製品に用いられている技術の紹介等により、技術分野を学ぶことの意義について具体的に示している。(P6～17)</p> <p>イ 「評価・活用してみよう」では、プラス面、マイナス面を考えさせることで、客観的に判断・評価する力が身に付くようにしている。(P89, 145, 189, 253)</p> <p>ウ 「リンク」「他教科」「小学校」により、学習内容の関連を図りながら学ぶことができる。(P32, 100等)</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 「材料と加工に関する技術」では、実感を伴って理解できるように、実験が多数紹介されている。(P22, 27, 29, 31)</p> <p>イ 「材料と加工に関する技術」では、見開き2ページで「検査と修正」について取り上げ、生徒のつまずきに対応できるように配慮している。(P66, 67)</p> <p>ウ 「けがの応急手当」として、けがや事故が起きた場合にも配慮している。(P3)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 巻末に防災手帳があり、防災・減災に役立つ技術を紹介している。</p> <p>イ 持続可能な未来を創るための技術の活用について記載するとともに、環境への配慮に関する内容が随所に見られる。(P10, 11, 19, 20, 22, 84～87等)</p> <p>ウ 技術分野に関係の深い仕事に携わる人々から勤労観を学べるよう、「技術の匠」が設定されている。(P13, 21, 61等)</p>

技術家庭	技術家庭 (技術分野)	番号 6	略称 教育図書	書名 中学技術家庭 (技術)
------	----------------	------	---------	-------------------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 身に付けさせたい知識、技能を「基礎技能」「基礎技能・知識」としてまとめ、確実に習得できるようにしている。(P37, 39, 159等)</p> <p>イ 学習内容の復習、確認ができるよう、章末に「まとめ」「章末問題」が設定されている。(P90, 91等)</p> <p>ウ 製作や実習については十分なページが割いてあり、大きな写真や図版を用いて製作工程が示してある。(P24～27等)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 実習例が流れに沿って示されている。また、学習への見通しが持てるよう、ページ上段に全体の流れが記載されている。(P30, 31等)</p> <p>イ 主体的な学習を促す「考えよう」「調べよう」「やってみよう」「実験」「実習」が設定されている。(P20, 22, 60, 62, 66, 111等)</p> <p>ウ 目的意識をもって学習できるよう、各節のはじめに生活との関連や学習のねらいが示してある。(P20, 32, 56等)</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫 (単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 生徒が教科書を見ながら実際につくることができるよう、製作例、実習例が豊富に掲載されている。(P160～169)</p> <p>イ 章の前半で製作例や実習例が紹介されている。(P24～27, 149～151)</p> <p>ウ 「材料と加工に関する技術」「生物育成に関する技術」では、学習環境にあわせて製作、実習ができるよう、題材を豊富に掲載している。</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫 (学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア ガイダンスにあたる「技術分野で何を学ぶか」という章が設定され、中学校3年間の技術分野の学習を概観できるようになっている。(P12～17)</p> <p>イ 各章のはじめに見開きのページを設定し、学習への興味・関心を高めながら導入を図っている。(P18～19, 92～93等)</p> <p>ウ 「情報に関する技術」の「デジタルものづくり」では、作業の分担と日程について示すなど、協力的な学びについて配慮している。(P219)</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 「材料と加工に関する技術」には「正確なものづくり」の節が設定され、正確な加工、組み立ての重要性を示している。(P32～47)</p> <p>イ 「強さへの挑戦」と題し、材料の性質や加工、構造を通して強さを追究する内容が設定されている。(P86～89)</p> <p>ウ 「材料と加工に関する技術」では、プラスチック、金属材料、森林のリサイクルを取り上げている。(P23, 29, 61)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 「エネルギー変換に関する技術」では、発電の仕組みについて丁寧に扱っている。また、巻末資料には、多くの「発電方法」が記載されている。(P264, 265)</p> <p>イ 「世界に誇る日本の技術」では、伝統的な建造物や世界初の技術や製品を取り上げ、日本の技術について理解を深める内容となっている。(口絵5, 6)</p> <p>ウ 製作例、実習例の中に、作業をうまく行うためのコツや安全のための注意点を示している。(P30, 31等)</p>

技術家庭	技術家庭 (技術分野)	番号 9	略称 開隆堂出版	書名 中学技術家庭 (技術)
------	----------------	------	----------	-------------------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 「学習の目標」が冒頭に提示してあり、学習内容やめあてが明確になっている。(P4, 6, 8, 10等)</p> <p>イ 各内容の終わりには、学習内容の振り返りと定着を図るための「学習のまとめ」のページが設定されている。(P90, 134, 174, 242)</p> <p>ウ 写真やイラストや図版が多く使用され、基礎・基本の理解を助けている。(P58, 60, 63等)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 「考えてみよう」「思い出してみよう」「調べてみよう」といった課題の提示により学習への導入が図られている。(P22, 24, 26等)</p> <p>イ 「？」として基礎的な内容の理解を深めたり、応用したりするための小課題が設定されている。(P22, 26, 28等)</p> <p>ウ 「参考」が多く提示されており、学習内容に関する補足や解説が丁寧になされている。(P23, 26, 31, 32等)</p> <p>エ 各内容の終わりに「探究」が設定されており、生徒がさらに学習内容を深めることができるようになっている。(P91, 135, 175等)</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫 (単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 3年間の学習をこれからの生活で生かしていけるようにするための「技術分野の出口」が設定されている。(P244～249)</p> <p>イ 各内容とも知識—技術—評価・活用という流れで構成されている。</p> <p>ウ アイデアスケッチやワークシートの記入例が示されている。(P34, 35, 40, 144, 218, 220)</p> <p>エ 作業を安全に進めるための「安全マーク」が付いている。(P58, 61, 63等)</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫 (学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 技術を適切に評価し活用する能力と態度を育てるための「技術の具体的な評価・活用の方法を考えてみよう」が設定されている。(P88, 89)</p> <p>イ 学習のまとまりごとに「ふり返り」が設定され、自己評価ができるようになっている。(P25, 33, 73, 83, 87等)</p> <p>ウ 冒頭のガイダンスでは、小学校での学習とのつながりについて理解を深める内容が設定されている。(P4～5)</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 「材料と加工に関する技術」では、「木材による製作」と「金属・プラスチックによる製作」とに明確に分けて掲載している。(P53～73, 74～83)</p> <p>イ 「生物育成に関する技術」では、「収穫後の管理」について取り上げ、土のリサイクルについて紹介している。(P159)</p> <p>ウ 修正の仕方の記述がある。(P59, 63, 65等)</p> <p>エ 情報セキュリティや情報モラルについて詳しく記載されている。(P190～201)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 環境や資源・エネルギーについて配慮する内容には「環境マーク」が付けられている。(P23, 91, 130等)</p> <p>イ 「リンクマーク」を用いて、学習内容の関連が図られている。(P12, 15, 23等)</p> <p>ウ 各ページの下には、「豆知識」があり、雑学的な内容が全ページに記述してある。</p>

技術家庭 (家庭分野)

技術家庭	技術家庭 (家庭分野)	番号 2	略称 東京書籍	書名 中学技術家庭 (家庭)
------	----------------	------	---------	-------------------

項 目		特 徴	
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	ア 「基礎技能」ページがタグ付けでわかりやすく、「基礎的・基本的」な知識・技能を意識させる工夫がある。(P53, 57等) イ 食品ページは見開きを使い、食材や概量の写真を多く掲載し、資料的機能や視覚的効果が高い。 ウ 単元毎の「学習のまとめ」が2ページあり、用語、学習の確認と、「生活に活かそう」で自分の生活課題を導き出せるような問いかけがある。(P94, 95等) エ 題材ごとに目標が記載され、学習内容が明確になっている。	
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	ア 「ひとくちQ、A」で関心を高めるよう工夫されている。 イ 専門家のコメント「プロに聞く」が多く掲載されている。 ウ 「生活の課題と実践」例が豊富(進め方や方法)で、視覚化とともに参考となる工夫がされている。(P251~) エ 「考えてみよう」「生活に活かそう」「やってみよう」「調べてみよう」やキャラクターの吹き出しの言葉で学習のポイントを絞り、興味を喚起したり学習を発展・深めたりできるよう工夫されている。	
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	ア 単元の配列に工夫があり、3年間の見通しを持ちやすい。 イ 各編の最初で、見通しや小学校と関連する学習内容が確認できる。(P21) ウ 家庭科でよく用いられる用語の解説が最終ページにある。また各ページにも用語の説明が多い。	
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	ア ガイダンスのページで3年間の家庭科の学習のねらいが押さえられ、最後には3年間の学習のまとめのページがある。(P8~19, P262, 263) イ 1年生当初と3年間の学習後との意識を比較し、確認する工夫がある。(P12, 13) ウ 「リンク」「他教科」標記で、関連が図りやすい。 エ 図表、資料、写真が多い。	
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	ア 調理実習の時間配分(手順例)が示されている。(P71等) イ 行事食の調理例と全都道府県の郷土料理とが掲載されている。(P86~89) ウ 食生活は実習の献立例が紹介され、調理掲載数が多く、衣生活の実習例では小物と衣服が豊富に紹介されている。幼児との触れ合いでも多様な実習例が紹介され、応用の幅がある。(P204~209) エ 「学んだことを社会に生かす」では、家庭科の授業が将来どのように社会とつながるのかという視点が示されている。(P266~)	
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	ア 防災の視点を重視している。(火災対策P137等) イ 日本の伝統と世界的視点での考え方が提示されている。 ウ 教科書が幅広である。(文字が大きく、行間が広い。図表が大きい。) エ イラスト・キャラクター・写真などを使い分け、見やすさに工夫がある。 オ ページ端の編毎のはっきりとした色分けと章の記載や「基礎技能」「実習例」を示す等の細やかなタグがある。(P53, 57等)	

技術家庭	技術家庭 (家庭分野)	番号 6	略称 教育図書	書名 中学技術家庭 (家庭)
------	----------------	------	---------	-------------------

項 目		特 徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 単元ごとの学習の目標が題材名のすぐ下中央に記載されている。「Q」では、まず太字でシンプルな発問があり、続いてさらに深めたい発問をあげ、思考力を高める工夫がある。</p> <p>イ 基本的用語が「キーワードチェック」として欄外にまとめられ、基本的内容が確認できるよう工夫されている。</p> <p>ウ 小学校の学習内容を復習し、中学校の学習内容と関連づけるページがある。(P4, 5)</p> <p>エ 「学習のふり返り」がテスト形式となっている。</p> <p>オ 食品の概量の掲載数が多く、充実している。(P80, 81)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 各章の初めに「自立度チェック」とクイズ等があり、学習前に関心を高め、自己診断ができる。</p> <p>イ 「生活の課題と実践」が内容(A~D)毎に配置されている。また、1つの課題に対し、複数の取組事例が提示されている。</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫 (単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 学習指導要領の内容(A~D)の順に配置されている。</p> <p>イ 口絵のページに1年間、一生の行事が紹介されている。</p> <p>ウ 写真、図表が大きく見やすい。</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫 (学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア ガイダンスは、見開き2ページに簡潔にまとめられている。(口絵1, 2)</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 資料や事例に工夫がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主食主菜副菜汁物などが具体的に紹介され(P91)、主食主菜副菜汁物別に実習例が紹介されている。(P116~113) ・調理器具の紹介例が多い。(P102) ・生活を豊かにするものの製作のアレンジ例が豊富である。(P214) ・生活全体で考えることが可能なイラストが掲載されている。(P170, 171) <p>イ 「住生活」の内容が充実している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住まいの紹介写真が大きく、具体的な特徴がわかりやすい。(P152) ・新しい住まい方が紹介されている。(P158) ・防災と防犯の視点がある。 <p>ウ 幼児の遊びについてイラスト等でイメージしやすくしており、工夫も多く紹介している。(P45~54)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 年中行事、和服等日本の伝統に関する内容をくわしく扱っている。(口絵3~7, P181~183)</p> <p>イ 育児休暇取得率や児童虐待についてのデータが掲載されている。(P15, 59)</p> <p>ウ 図や表、解説箇所には枠囲いをし、さらに地色を施すなど見やすさを工夫している。全体を通じて柔らかな色使いである。</p>

技術家庭	技術家庭 (家庭分野)	番号 9	略称 開隆堂出版	書名 中学技術家庭 (家庭)
------	----------------	------	----------	-------------------

項 目		特 徴	
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	ア 綴じ込みページの食品が実物大で、各食品の比較ができる。 イ 学習の目標が小單元ごとに示され、振り返りは単元の終わりにまとめている。 ウ 「学習のまとめ」が内容毎に1ページ設定されている。	
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	ア 「参考」で専門家のコメントが紹介されている。 イ ページ下の「豆知識」で各内容に関連した情報が掲載され、情報量が豊富である。 ウ 「発展」は課題意識を高める話題を紹介している。(栄養素を取り出す実験 (P70, 71)、環境問題への挑戦 (P244) 等)	
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫 (単元の設定・配列の相違等)	ア 学習指導要領の内容 (A~D) の順に配置され、最後にまとめて「生活の課題と実践」を掲載している。 イ 全体の目次の他、内容 (A~D) 毎に学習の流れが記載されており、そこに発展・探究項目を示し、詳しく紹介している。 ウ 「話し合ってみよう」「やってみよう」「考えてみよう」などで導入の工夫をし、学習意欲の喚起を図っている。	
	④各学年の学習内容の構成の工夫 (学び方や考え方の展開の相違等)	ア ガイダンスページがテーマ別に見開き2ページずつで紹介されている。写真が大きく、自立という言葉が具体的に示されているなど、学習内容を平易な言葉で紹介している。 イ 「リンク」はページと内容が記載されている。	
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	ア 食生活の実習では、プラス1のページで応用が広がり (P124, 125)、弁当のおかずの紹介例も多い。(P126) イ 日本食品成分表が行ごとで色を変えてあり、見やすく工夫されている。(P142, 143) ウ 食品群別摂取量について詳しく記載されている。(P72~74) エ 調理実習の手順の流れや時間配分が大きく描かれている。 オ 「住まいと暮らし」(P160)は災害後の暮らしを紹介している。	
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	ア 防災に関して、住生活以外でも取り上げている。(食 P140) イ 「言語活動の充実」について解説するページがある。(P260~263) ウ 「持続可能な社会」を單元として取り上げており、さらに「持続可能な社会をつくる」として、各内容で課題設定している。(P136~139等) エ 資料ページやグラフ、写真、解説などのコーナーに地色をつけて区別している。	

英語

英語	英語	番号 2	略称 東京書籍	書名 中学英語
----	----	------	---------	---------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 基本文には簡潔な説明が付けられ、聞き取りや一部を置き換えて話したり書いたりする活動が設定されている。(1年P39等)</p> <p>イ 本文の語彙のリストの他に、TOOL BOX(1年P39等)やBonus Word Box(1年P142, 143等)が掲載されている。</p> <p>ウ 「まとめと練習」で文法事項を語順に注意してまとめ、簡単な問題を付けて復習するようになっている。(1年P36等)また巻末には「基本文基本表現一覧」を設け、総まとめができるようになっている。(1年P150, 151等)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア Further Reading(3年P148~151)や名作鑑賞(3年P144~147等)の補充的な読み物教材が巻末に掲載されている。</p> <p>イ 英語を意欲的、主体的に学ぶための方法(How to)を身に付ける単元を「学び方コーナー」として設定し、辞書の使い方、音の変化、発音のポイント等、英語を学ぶ際の手助けになる情報を提供している。(1年P37等)</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 全体をUnit「習得」、Daily Scene「活用」、Presentation「発信」の3部構成とし、習得した基礎学力を積み上げて活用し、自分の言葉で発信するための表現力の育成を図っている。</p> <p>イ 1年のUnitは原則3パート構成で、見開き1パートの中に、本文、基本文とその練習等の活動を設定している。(1年P58, 59等)</p> <p>ウ 2・3年のUnitは、Starting Out, Dialogue, Read and Think, Activityの4つで構成されており、英語で自己表現する活動が設定されている。(2年P73等)</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 1年の最初に音とつづりの関係に気付かせたり、小学校外国語活動で触れたことがある数・曜日・月等の単語をまとめて学習したりするHi, EnglishやUnit 0のページがある。(1年P4~17)</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア Daily SceneやPresentationではUnitで学習した基本文をモデル文の中で繰り返し扱うことで、基礎基本の定着をねらっている。Daily Sceneでは「電話の会話」「道案内」を3年間で繰り返し扱うようにしている。(1年P72, 73等)各学年に3回Presentationが配置され、既習の言語材料を使って身近なテーマでスピーチ原稿作りに取り組む活動が設定されている。</p> <p>イ 聞くことに特化したListening Activityのページが(1年P45等)あり、大まかな内容の聞き取りや英語の質問を聞いて英語で答える問題が設定されている。</p> <p>ウ 全学年で読み物教材が用意され、読み取った内容を要約したり、感想を話し合ったりする活動が設定されている。(1年P128~130等)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わり等	<p>ア 環境、福祉、防災、技術、情報化、国際理解、異文化理解、自然科学、人物伝、人権、平和等、多様な題材を取り上げている。</p>

英語	英語	番号 9	略称 開隆堂	書名 中学英語
----	----	------	--------	---------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 基本文については、コミュニケーション活動を通して習得させるために文構造による提示ではなく、対話文形式で提示している。（1年P26等）</p> <p>イ 数・曜日・月の言い方等は効率よく学習できるようにWord Webのコーナーにまとめている。（1年P29等）</p> <p>ウ 英語のつづりと発音の関係が理解できるように、同じ発音をする同じつづりを含んだ単語を一覧表にまとめている。（1年P133）</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 巻末付録に、発展的な課題として、ある程度分量のある読み物教材が掲載されている。（3年P98～110等）</p> <p>イ 1年ではProgram 1の後、2年・3年では、Program 1の前に辞書指導が入れている。（1年P23等）本文の学習中にも辞書の使用を促す問いかけがある。（2年P83等）</p> <p>ウ 「英語のしくみ」で文法事項をまとめて解説しており、本課の基本文とも相互参照できるようになっている。（1年P58, 59等）</p> <p>エ 全学年の巻末に「英語で『できるようになったこと』リスト」を付け、定期的に学習状況とその成果を振り返り、チェックできるようになっている。（巻末資料）</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫（単元の設定・配列の相違等）	<p>ア 通常単元は見開き1セクションで、左ページが基本文の説明と練習、右ページが本文の読み取り、Q & A、My Projectにつながる書く活動になっている。（1年P60, 61等）</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫（学び方や考え方の展開の相違等）	<p>ア 入門期のLet's Start①～④は小学校外国語活動の内容を復習する教材となっている。（1年P6～13）</p> <p>イ アルファベットの読み方と書き方の指導にProgram 1をあてている。それぞれの文字の音に気付かせ、ゲームやなぞり書きを通して大文字と小文字を丁寧に指導することができる。（1年P14～21）</p> <p>ウ 巻末にアクションカードを掲載し、「アクションコーナー」で、入門期の早い段階から動作を表す表現をまとめて与えている。（1年P34）</p> <p>エ 1年で一般動詞の過去形、2年で受動態を学習し、次年度の学習に円滑な接続を図っている。</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 既習事項を使って、自分の伝えたいことや思ったことをまとめ表現する活動として、My Projectを数ページにわたり設定している。（1年P44～47等）</p> <p>イ Power-up Listeningでは、全体から細部へ発問を変えながら繰り返し聞かせる構成になっている。（1年P75等）</p> <p>ウ Power-up Speakingでは、ペアワークを通して話す力の育成を目指した活動が設定されている。（1年P74等）</p> <p>エ Readingではページごとに日本語や英語で問いが設定してあり、読み取りのポイントを示している。内容理解の問いに加えて読み取った内容について考えを述べる活動が設定してある。（3年P38～43等）</p> <p>オ Power-up Writingでは、マッピングを使って、伝えたい内容を整理した上で、まとまりのある文章が書けるようにしている。（2年P14, 58等）</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わり等	<p>ア 環境、平和、人権、共生、伝統文化、異文化理解等の現代的課題を扱っている。</p>

英語	英語	番号11	略称 学校図書	書名 中学英語
----	----	------	---------	---------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 各Sectionが見開き2ページで、左ページに本文、右ページに基本文と基本文を習得するためのListening, Speaking, Writingの活動からなるActivitiesを設けている。(1年P43等)</p> <p>イ Word Tree(1年P29等)のページでは数字や曜日を表す単語等、関連のある語彙をまとめて提示し、言語活動を通して習得できるようになっている。巻末付録のMore Words(1年P136~141等)のコーナーでは生活に関連する語彙を掲載している。</p> <p>ウ Lessonページの下に、Tipsを掲載し、コミュニケーションをする上での留意点や言語材料の使い方について解説している。また同じ発音の語を提示することで、発音に対する意識を高めている。(2年P34等)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア Chapterの扉には、各Lessonや各コーナーの題材、言語材料、目標が掲載されている。これにより、生徒は各Chapterで学習の見通しを立てたり、学習を振り返ったりすることができる。(1年P19等)</p> <p>イ 各Chapterの最後にあるCheck It Outで、学習した文法事項を、語順を色別に整理して提示している。(1年P26, 27等)</p> <p>ウ Reviewでは、自分の考えを英語で作文する課題を設定し、自己表現をさせる工夫がされている。(2年P55等)</p> <p>エ Talking Timeでは、日常生活での場面を設定し、よく使われる表現を紹介している。(3年P34~35)</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 全学年4つのChapterから構成され、Chapterの最後には、そのChapterで学習した基本文や重要表現を、実際に活用して書いたり話したりする表現活動、Chapter Projectを設定している。(1年P46, 47等)</p> <p>イ Chapterの中のLessonは、ABC(D)からなる基本文を扱うSectionとLesson全体の復習のReviewのページで構成されている。Reviewでは、4つの技能を使って復習(聞き取り、空所補充、並べ替え、短い文章の読解、英作文)することで、Lessonで学習した言語材料の定着を図っている。(2年P14, 15等)</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 1年Pre-LessonやChapter Projectなどで小学校外国語活動で慣れ親しんだ内容を設定し、中学校英語への円滑な接続を図っている。(1年P4~7等)</p> <p>イ 1年Let's Startでアルファベットの音とつづりの関係に気付かせ、身の回りの英語や英語のあいさつへと広げている。(1年P8~18)</p> <p>ウ 2年と3年には、前学年の基本文を中心とした言語材料を復習・確認するPre-Lessonを設定している。(2年P6, 7等)</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 電話や買い物、道案内等、会話特有の表現や関連する語彙を身に付けるTalking Timeのコーナーが設定されている。(1年P79等)</p> <p>イ Readingという読み物教材があり、読後に内容理解を問う問題や、内容について生徒自身が英作文する活動等を設定している。(2年P92~95等)</p> <p>ウ Chapter2 Projectのページでは、テーマに沿って表現する活動を設定し英語の表現になれる工夫がしてある。(1年P80, 81等)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わり等	<p>ア 本文の題材のテーマとして、異文化理解、平和、日本の伝統文化、環境問題、自然や動物の愛護、福祉、人権等が扱われている。</p>

英語	英語	番号 15	略称 三省堂	書名 中学英語
----	----	-------	--------	---------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア GET のページでは、基本文を既習文との対比で提示し、「聞く」「話す」「書く」を段階的に練習することによって自己表現の基礎を固めるようになっている。(1年 P24, 25)</p> <p>イ Words & Sounds のコーナーでは、本文用の語彙とは別に、数字や曜日等の語彙をまとめて提示し、練習することを通して定着をねらっている。(1年 P26 等)</p> <p>ウ 「発音とつづりの関係」が理解できるように、母音や子音の読み方についてまとめ、練習するページが設定されている。(1年 P48, 49)</p> <p>エ Lesson 末の「まとめ」で文法内容を簡潔にまとめている。併せて Sounds のコーナーで発音とつづりの関係や英語の音声への気付きを促している。(1年 P120 等)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア Lesson の扉には、題材に関連のある写真と英語での問いかけが掲載されており、題材、目標、活動の内容を確認しながら、学習の見通しが立てられるようになっている。(1年 P87 等)</p> <p>イ USE(Read)のページでは、読み取りのポイントを示す Tips や、代名詞が指す内容の確認を促す Check の囲みがある。(1年 P86 等)</p> <p>ウ 巻末の付録の中に発展的な読み物教材 Further Reading(1年 P130～133 等)や、英語の歌(1年 P134, 135 等)、絵でわかる英語のしくみ(1年 P142～145 等)、基本文のまとめ(1年 P146, 147 等)がある。</p> <p>エ 巻末に生徒自身が自分の到達度を確認できる CAN-DO リストが配置されている。(各学年巻末)</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア Lesson の構成は、基本的に GET(基礎的な知識・技能の習得)、USE(基礎的な知識・技能の活用)、文法のまとめとなっており、言語材料の習得から活用をねらう構成になっている。(1年 P87～96 等)</p> <p>イ USE(Read)では、見開き2ページで、3ステップの課題が設定される等、読む活動に焦点化した指導が行えるようになっている。(1年 P92, 93 等)</p> <p>ウ USE(Speak)では、プレゼンテーションやスピーチ等の発表する活動や身近な話題についてペアでやりとりをする活動が設定されるとともに、Tips for Speaking / Communication として会話を続けるためのポイント等が提示されている。(1年 P94, 95 等)</p> <p>エ USE(Write)では、手紙、メール、記事、エッセイを書く活動が設定されるとともに、Tips for Writing としてまとまりのある英文を書くためのポイントが提示されている。(1年 P118, 119 等)</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 1年冒頭に Get Ready(1年 P6～17)を設けて、小学校外国語活動で体験した表現や語彙を確認したり、音と文字の関係について気付かせたりし、興味・関心を高めるようにしている。Lesson 1～3はリスニング活動から導入し、徐々に話す活動、書く活動に慣れさせる展開になっている。</p> <p>イ 1年で一般動詞の過去形、2年で受動態を学習し、次年の学習に円滑な接続を図っている。</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア Project として、いくつかの Lesson で学んだ言語材料や言語活動を生かして展開する、統合的な活動が各学年三か所設定されている。</p> <p>イ 各 Lesson の USE(Read)のページや Let's Read という読み物教材では、本文の内容理解に止まらず、読み取ったことをもとに話し合う課題が設定してある。(3年 P107 等)</p> <p>ウ Let's Talk のページでは買い物や電話での会話等、日常でよく使われる表現が紹介されている。(1年 P59 等)</p> <p>エ Let's Listen では実際の生活場面を設定し、全体から細部という流れで聞く練習ができるように構成されている。(1年 P68 等)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わり等	<p>ア 本文の題材のテーマとして、異文化理解、平和、日本の伝統文化、科学、環境問題、生命の尊重等が扱われている。</p>

英語	英語	番号17	略称 教育出版	書名 中学英語
----	----	------	---------	---------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 基本文には簡単な説明が施されるとともに、各パートの基本文を定着させるための基本的な活動がある。（聞き取りや、一部を置き換えて話したり、書いたりする活動）（1年P18, 19等）</p> <p>イ 月や季節等の関連する語彙をまとめて学ぶTime for Wordsのコーナーが設定されている。（1年P46等）</p> <p>ウ 「つづりと発音の関係」や「音のつながり」や「イントネーション」等の音声についての注意事項が本文のページ下に掲載されている。（1年P38, P40等）</p> <p>エ 文法のまとめりごとに「英語のしくみ」が設定されており、語順や英文の作り方についてまとめられている。1年7か所、2年7か所、3年4か所。（1年P33等）</p> <p>オ 基礎・基本の徹底を図るための別冊Essentialsが添付されている。</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 各パートの基本文については、「聞く」「話す」「書く」の順に活動が設定され、活動を通して段階的に基本文が習得しやすいように配慮されている。（1年P26等）</p> <p>イ ActivityのTool Kitでは、使用表現が絵や図で示されており、視覚的な支援となっている。（2年P93等）</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫（単元の設定・配列の相違等）	<p>ア 各LessonのHop(Part 1, 2)では、Tool Kitの中で置き換え練習を行うことを通して、各パートの基本文の定着を図っている。（1年P36, 37等）</p> <p>イ 各LessonのStep(Part 3, 4)では、本文を読むこととActivityを通して、基本文を定着させる活動が設定されている。（1年P40, 41等）</p> <p>ウ 各LessonのJumpでは、Lessonを振り返る活動を通して基本文をはじめ単語や表現のさらなる定着を図る活動が設定されている。</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫（学び方や考え方の展開の相違等）	<p>ア 1年のSpringboard①～⑩で小学校外国語活動の内容を復習したり、アルファベットごとにつづりと発音の関係に気付かせたりすることで、円滑な接続を図っている。（1年P2～17）</p> <p>イ 1年で一般動詞の過去形を導入し、2年のLesson 1への円滑な接続を図っている。</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア Projectでは、それまでのLessonや活動等で積み上げてきた基礎的知識や技能を異なる場面で使うことによって、生徒自身が考えたことを文章にまとめたり、それらを発表したりする活動が設定されている。（3年P38, 39等）</p> <p>イ Time for a Skitでは、道案内や電話等、特定の場面でよく使われる表現をスキットを通して身に付ける活動が設定されている。（1年P73等）</p> <p>ウ Reading Lessonとして、各学年にReadingに特化した教材があり、英語の質問に答えながら内容理解を図る活動が設定されている。（1年P122～126等）</p> <p>エ Writing Tips/Reading Tips/Listening Tips/Conversation Tipsは、「文章を少しでも長く書くためのコツ」等、それぞれの技能について習得するためのポイントが提示されている。（2年P55等）</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わり等	<p>ア 異文化・日本の伝統文化・生命・環境・福祉・平和・人権・異文化理解等について取り上げられている。</p>

英語	英語	番号38	略称 光村図書出版	書名 中学英語
----	----	------	-----------	---------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 基本文を習得するため、Try It!のページに「聞く」「話す」「書く」の活動が段階的に設定されている。(1年P41等)</p> <p>イ 教科書の中央部に日常表現(生活語彙)をWord Squareとして掲載し各Unitの言語活動で使えるようにしている。(1年P90~95等)</p> <p>ウ 本文側注のSoundで音声記号を示し、強勢、区切り、抑揚、リズム、音のつながり等についてポイントを示している。(2年P96等)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 巻末に付録として、Let's Read Moreを配置し、生徒の知的好奇心や英語学習の意欲をより高めるための読み物教材が収録されている。(2年P130~132)</p> <p>イ Your Coachでは「辞書の使い方」「音読の仕方」「英文を読むコツ」「リスニングのコツ」等英語習得のヒントが紹介されている。(1年P58等)</p> <p>ウ 本文の題材への興味づけを図ったり、学習への動機づけを図ったりするため、Unitの扉に工夫が見られる。(3年P13等)</p> <p>エ Language Focus(1年P87等)で文法事項のまとめりごとに、語順に焦点をあてて整理している。巻末(1年P166, 167等)でも基本文等をまとめて掲載している。</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 基本となるUnitは本文とTry It!で構成され、Try It!では、基本文を「聞く」「話す」「書く」活動が設定されており、言語材料を段階的に習得できるように構成されている。UnitのまとめのYou Can Do It!では実際の言語の使用場面を想定した言語活動を通して、そのUnitの目標が達成できるように設定されている。(2年P72等)</p> <p>イ Unit最後のYou Can Do It!のページで、4技能を統合的に活用する活動(「書く」と「話す」を関連づけた活動-2年P62等)を設定している。</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 1年冒頭に、Let's Enjoy English!を配置し、小学校外国語活動で慣れ親しんだ音声を中心とした活動が設定されている。(1年P4~17)</p> <p>イ 1年のUnit10, 11で一般動詞の過去形について、まとめて扱っている。2年のUnit1で一般動詞過去形の復習から入り、be動詞過去形へつなげている。</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア Go for It!で既習のUnitで学習した表現を活用して、自分の考えを書かせたり、発表させたりする自己表現の場を設定している。(1年P54等)</p> <p>イ Unitの扉で、まとめりのある英語を聞かせ、全体から細部を聞き取る流れになっている。(1年P35等)</p> <p>ウ Skit Timeで買い物、電話、道案内等の会話を練習したり、一部創作したりして演じる課題が設定されている。(1年P77等)</p> <p>エ Let's Readで読む前の問い(2年P106等)、内容に関する問い(2年P107等)本文を読んだ感想や意見を求める問い(2年P110等)を設定する等、主体的な読みにつながる工夫がある。</p> <p>オ CLIL 英語で学び考えようのページでは、保健体育や技術・家庭等、他教科の内容を取り上げ、英語を通して学習する課題が設定されている。(3年P90, 91)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わり等	<p>ア 本文の題材のテーマは、日本の伝統や文化、道徳的な内容、平和、人権や福祉、環境問題、将来の生き方、食生活や健康、異文化理解等が扱われている。</p>